

発売元



北海道ホンダ販売株式会社

〒062-0051 北海道札幌市豊平区月寒東1条17丁目5番20号

本 社 TEL 011-856-5000 FAX 011-856-6060

製造元



和同産業株式会社



JQA-QM5922 JQA-EM3683
本社・工場 本社・工場
この登録マークは製品またはサービス
そのものを保証するものではありません。

本 社 〒025-0035 岩手県花巻市実相寺410番地

TEL 0198-24-3221 FAX 0198-41-1221

お客様メモ

購入日 平成 年 月 日

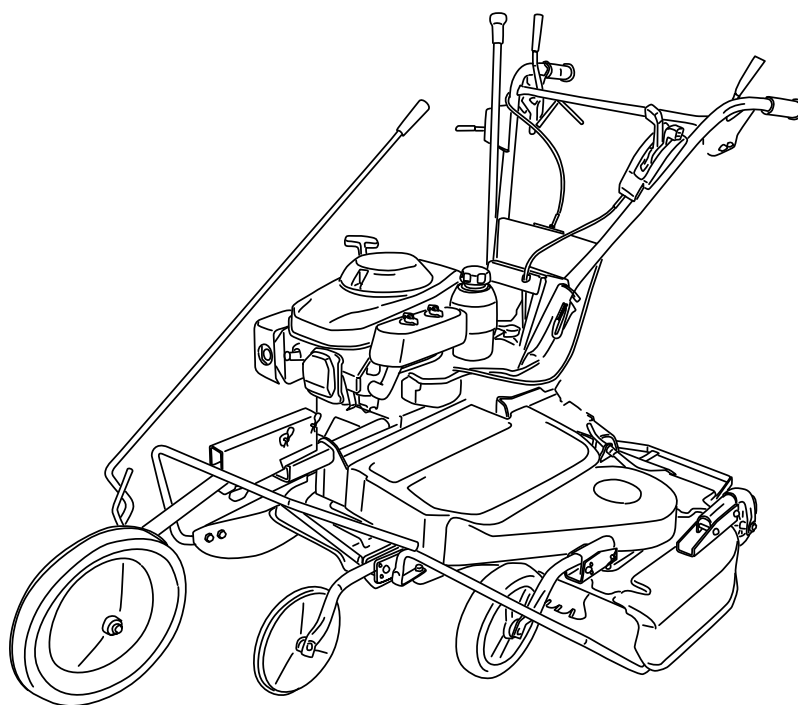
購入店

取扱説明書

ローリングモア

あぜみち

JB-870



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本
取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると、事故
を引き起こすおそれがあります。

お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

J B－870 あぜみち を
お買い上げいただき、ありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書は、J B－870 あぜみち の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用の前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いただき、最良の状態でご使用ください。
- お読みになった後も、必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げいただいた販売店、または、お近くの当社支店、営業所へご注文ください。
- なお、品質・性能・取扱性向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容およびイラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただいた販売店、または、お近くの当社支店、営業所へご相談ください。

-  印付きの下記マークは、安全上、特に重要な項目ですので、必ずお守りください。

危険

その警告文に従わなかった場合、死亡または、重傷を負うことになるものを示します。

警告

その警告文に従わなかった場合、死亡または、重傷を負う危険性があるものを示します。

注意

その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるもの、または製品の重大な破損をまねくおそれのあるものを示します。

その他の表示として

重要 確認

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるものを示します。

誤った操作をしないための補足説明です。

もくじ

安全に作業するために	1
・ 一般的な注意項目	1
・ 作業前後の確認時の注意項目	3
・ 輸送時の注意項目	7
・ 移動・作業時の注意項目	9
・ 作業終了後・格納時の注意項目	14
サービスと保証について	15
本製品の使用目的について	15
1. 警告ラベルの貼付け位置	16
2. 各部の名前	17
3. 操作レバー関係の取扱い要領	18
4. 運転前の準備・点検	24
5. エンジンの始動・停止のしかた	28
6. 運転操作のしかた	32
7. 草刈機のとめかた	40
8. 定期点検	42
9. 点検・整備	43
10. 長期間使用しないときの手入れ	47
11. 車への積載の場合	49
12. 故障のときは	50
13. 標準付属品および主要消耗部品	51
14. 主要諸元	52

安全に作業するために

ここに記載されている注意事項を守らないと、
死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

・一般的な注意項目



注意

「取扱説明書」をよく読んで。

本機を使用する前に、必ず「取扱説明書」をよく読んで、十分理解してから使用してください。
取扱説明書に記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損等が生じるおそれがあります。



警告

こんなときは運転しない。

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき
- 酒を飲んだとき
- 妊娠しているとき
- 18歳未満の人



警告

すべりにくい靴・手袋などの作業に適した服装を心がけてください。

はち巻き、首巻き、腰タオルは禁止です。

ヘルメット、すべり止めの付いた長靴、手袋を着用し作業しやすいだぶつきのない服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、すべて転倒し、ケガをするおそれがあります。



警告

草刈目的外の作業は絶対禁止。

本機は草刈機です。草刈目的外の使用は絶対しないでください。

【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。



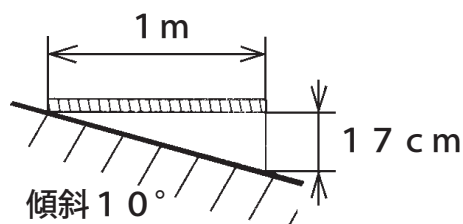
警告

傾斜 10° を超える斜面では本機を使用しない。

草刈作業は平坦な場所で行い、傾斜 10° を超える斜面では本機を使用しないでください。

【守らないと】

転倒するおそれがあります。



警告

機械の改造禁止。

改造をしないでください。

【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。



警告

機械の中に手を入れない。

カバーの中には回転部や可動部があり、むやみに手などを入れると大変危険です。やむをえないときは必ずエンジンを停止してから行ってください。

【守らないと】

回転物などに巻き込まれ、傷害事故をまねくおそれがあります。

・作業前後の確認時の注意項目



危険

注油・給油・点検はエンジンが冷めてから行う。

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油・点検をしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火し、火災の原因となることがあります。



危険

燃料補給時は火気厳禁。

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明など火気厳禁です。

【守らないと】

燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。



危険

機械の下にもぐったり、足を入れない。

機械の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

何かの原因で機械が動いたときに、傷害事故をおこすおそれがあります。



危険

排気ガスには十分に注意。

しめきった屋内などではエンジンを始動しないでください、エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気してください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたるおそれがあります。



警告

燃料もれに注意する。

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすことがあります。



警告

燃料タンクキャップをしめ、こぼれた燃料は拭き取る。

燃料を補給したときは、燃料タンクキャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。

【守らないと】

火災事故を引きおこす原因になります。



警告

刈取りする地域の異物はあらかじめ取り除く。

あらかじめ刈取りする地域の木片・ビニール・ビン・カン・ホース・ナワ・布切れ・およびその他の異物をすべて取り除いてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。



警告

点検整備は平坦で安定した場所で行う。

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



警告

電気部品・コードは必ず点検。

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火傷や火災事故の原因となることがあります。



警告

作業前には必ず安全装置を確認する。

作業前に安全装置の取扱いと、適切に働くかを確認してください。

【守らないと】

安全装置が作動せず、死亡事故や重大な事故をまねくおそれがあります。



警告

作業前には必ず刃の締付け状態を確認する。

作業前に刃の締付け状態を確認してください。また、刃締付ボルトなどが摩耗していたら交換してください。

【守らないと】

刃が外れて飛び出し、死亡事故や重大な事故をまねくおそれがあります。



注意

作業前・後は機械の点検をする。

使用の前と後には必ず機械の点検をしてください。特にレバーなどの操縦装置は確実に作動することを確認してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障を生じるおそれがあります。



カバーやラベル類は必ず取り付ける。

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付け、ラベル類が損傷した場合は直ちに貼り替えてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



機械の点検整備・清掃などをするときにはエンジンを停止する。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となります。



点検整備は高温部が十分冷めてから。

マフラーやエンジンなどの高温部が十分冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

火傷をするおそれがあります。

・ 輸送時の注意項目



警告

トラックへの積み込み・積み降ろしは、長さ・強度・幅の十分あるアルミ板を使用する。

アルミ板は丈夫ですべり止めのある、基準にあったものを使ってください。

【守らないと】

アルミ板が折れたりして転倒し、傷害事故をおこすことがあります。

<アルミ板の基準>

強度：機体の重量に十分耐えるもの

幅：タイヤ幅の1.2倍以上

長さ：荷台の高さの4倍以上

：すべり止めのあるもの

：フックのあるもの



警告

アルミ板は確実に固定する。

積み込み・積み降ろしをするトラックの荷台からズレたり、外れたりしないように確実にアルミ板を固定してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



警告

トラックへの積み込み・積み降ろしは平坦な場所で行い、トラックには必ず車止めを。

積み込み・積み降ろしは平坦で交通の安全な場所で行い、積み込むトラックのエンジンを止め、変速は「P」または、「1」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。



警告

積み込み・積み降ろし作業は、誘導者をつけて。

トラックへの積み込み・積み降ろし作業は誘導者をつけて、周囲の安全を十分確認してください。

【守らないと】

転落事故などの事故をまねくおそれがあります。



警告

誘導者は機械の近くには絶対立たない。

トラックへの積み込み・積み降ろし作業の誘導者は機械の近くには絶対立たないでください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



警告

ロープでトラックに確実に固定し、トラックは安全運転をする。

トラックにのせて移動するときは、強度の十分あるロープでトラックに機械を確実に固定し、トラックの運転は急発進・急ブレーキ・急ハンドルなどをさけ、安全運転をしてください。

【守らないと】

荷台から機械が転落したり、事故をまねくおそれがあります。



警告

アユミ板の上ではクラッチレバーの操作厳禁。

トラックへの積み込み・積み降ろしは、アユミ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて低速で行ってください。走行クラッチレバー、変速レバーの操作はしないでください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



注意

積み込み・積み降ろし作業は、刈取クラッチレバーを必ず「切」位置にして行う。

トラックへの積み込み・積み降ろしのときは、刈取クラッチレバーを必ず「切」位置にして行ってください。

【守らないと】

傷害事故をまねくおそれがあります。

・移動・作業時の注意項目



危険

詰まった草や異物を取り除くときは必ずエンジン停止。

刈取部に草や異物が詰まった場合には、必ずエンジンを停止し、各動作部が完全に止まっていることを確認してから、取り除いてください。

【守らないと】

衣服が巻き込まれたり、傷害事故や機械の破損をまねくおそれがあります。



警告

エンジン始動時は周囲の安全を確認し、走行クラッチレバー・刈取クラッチレバーを「切」位置にし、変速レバーを「低」位置にする。

【守らないと】

機械が急発進してケガをするおそれがあります。



警告

草刈り作業中は機械の周りに人や動物を近づけない。

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



警告

坂道は走行注意。

急な坂道は走行しないでください。

やむをえず坂道を走行する場合は、転倒やスリップに気を付け、最低速度でゆっくり移動してください。

【守らないと】

機械の横転、暴走など思わぬ事故を引き起こす原因になります。



坂道では駐車禁止。

【守らないと】

機械が動き出し、事故の原因となります。



わき見運転や手放し運転禁止。

【守らないと】

傷害事故の原因となります。



凍結時は十分注意し低速で。

凍結したすべりやすい路面ではなるべく作業しないでください。やむをえない場合は、十分注意し低速で行ってください。

【守らないと】

転倒事故などの原因となります。



機械から離れるときは平坦地に置きエンジンを止める。

機械から離れるときは、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めてください。

【守らないと】

機械が動きだし、事故の原因となります。



警告

夜間や、視界の悪いときには運転しない。

【守らないと】

視界不良により事故などの原因となります。



警告

刈刃が回転中は危険、近づき禁止。

刈刃が回転中は刈取部付近に近づかないでください。周囲の安全を確かめてから刈取クラッチレバーを操作してください。

【守らないと】

刈刃に巻き込まれて傷害事故の原因となります。



警告

急発進・急旋回・急停止やスピードの出しすぎ禁止。

発進・停止はゆっくり行ってください。旋回するときは十分速度を落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では十分速度を落としてください。

【守らないと】

機械の破損、事故の原因となることがあります。



警告

機械の異常に気づいたらすぐにエンジン停止。

異物が当たったり、巻きついたり、異常振動、異音、異臭などに気付いたら、速やかにエンジンを停止し、高温部が冷めてから点検してください。

【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。



警告

回転部に手・足・顔を近づけない。

回転している部分をのぞき込んだり、手・足・顔を絶対に近づけないでください。

【守らないと】

巻き込まれたり、飛散物などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



警告

燃えているものの上やその近くは走行禁止。

【守らないと】

燃料やオイルなどに引火して、火災になるおそれがあります。



注意

移動時は路肩に注意。

溝のある場所や傾斜している場所では、路肩に十分に注意してください。

【守らないと】

転落事故を引き起こすおそれがあります。



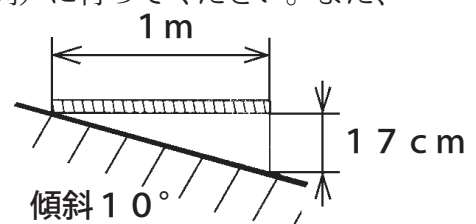
警告

傾斜面の作業に注意。

斜面での草刈り作業は上下方向ではなく、横方向（等高線方向）に行ってください。また、 10° 以上の過度な斜面では草刈機を使用しないでください

【守らないと】

転倒、転落事故をまねくおそれがあります。





注意

周囲の安全を確かめ低速で発進する。

急発進や急旋回をしないで周囲の安全を確認してゆっくりと発進してください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。



注意

移動時には刈取クラッチレバーを必ず「切」位置にする。

【守らないと】

思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。



注意

刈刃への巻き込まれ注意。

草刈り作業時以外は、刈取クラッチレバーを「入」位置にしないでください。刈刃が回り危険です。

【守らないと】

巻き込まれて傷害事故の原因になることがあります。



注意

公道走行禁止。

本機は小型特殊自動車型式認定の対象外のため、型式認定を受けることができません。したがって法令により公道を自走することができません。トラックなどに載せて移動してください。

【守らないと】

交通事故をまねくおそれがあります。

・作業終了後・格納時の注意項目



危険

シートなどは機械が十分冷めてからかける。

【守らないと】

火災事故を引き起こすことがあります。



警告

機械の清掃・点検をするときはエンジンを停止する。

【守らないと】

機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。



注意

定期点検整備を受けてください。

1年毎に定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。特に、燃料パイプや電気配線は2年毎に交換してください。

【守らないと】

整備不良による事故や、機械の故障を生じるおそれがあります。



注意

長期格納時は燃料を抜く。

長期間使用しないで格納する場合は、燃料タンク・気化器の燃料を抜いてください。

【守らないと】

燃料が変質してエンジンの不具合をおこしたり、故障の原因となることがあります。

サービスと保証について

保証について

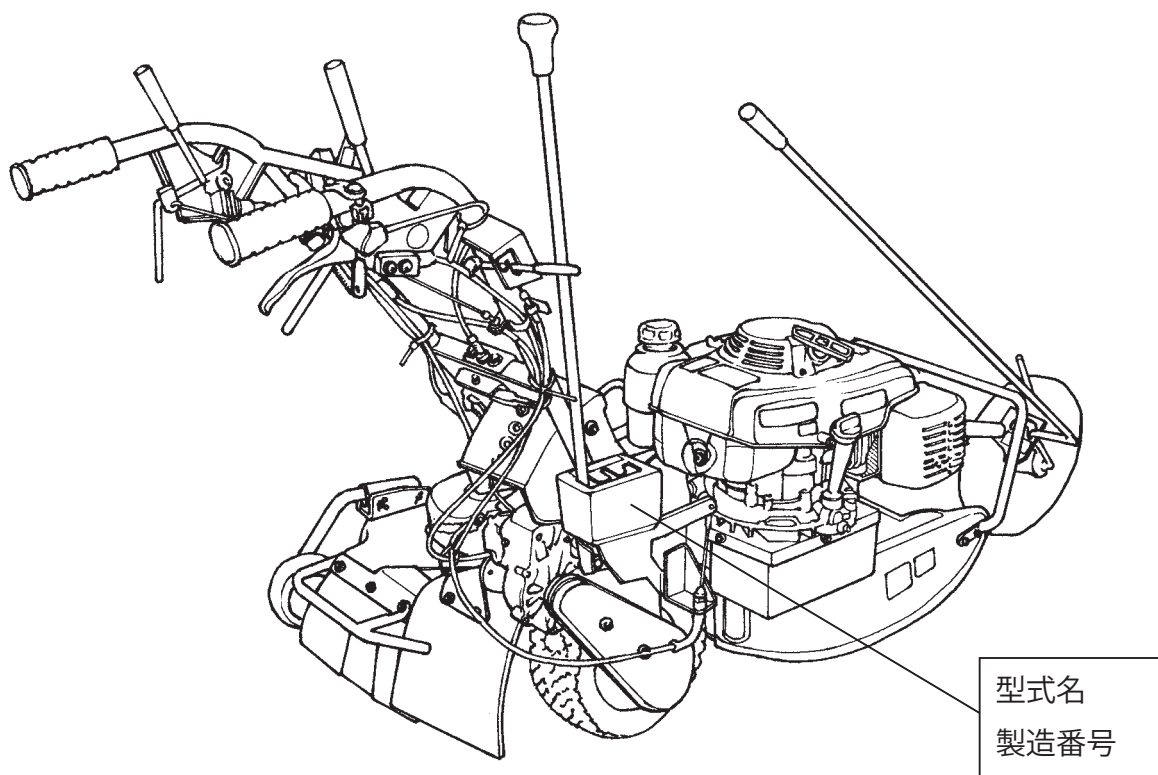
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いときは、お買い上げいただいた販売店、またはお近くの当社支店、営業所までご連絡ください。

その際には、以下の内容をご連絡ください。

- ご使用機の型式名と製造番号
- 故障内容（できるだけ詳しく）



補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

本製品の使用目的について

本製品は水田の畦草刈取り作業にご使用ください。

使用目的外の作業や改造などは行わないでください。

使用目的外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

（詳細は保証書をご覧ください。）

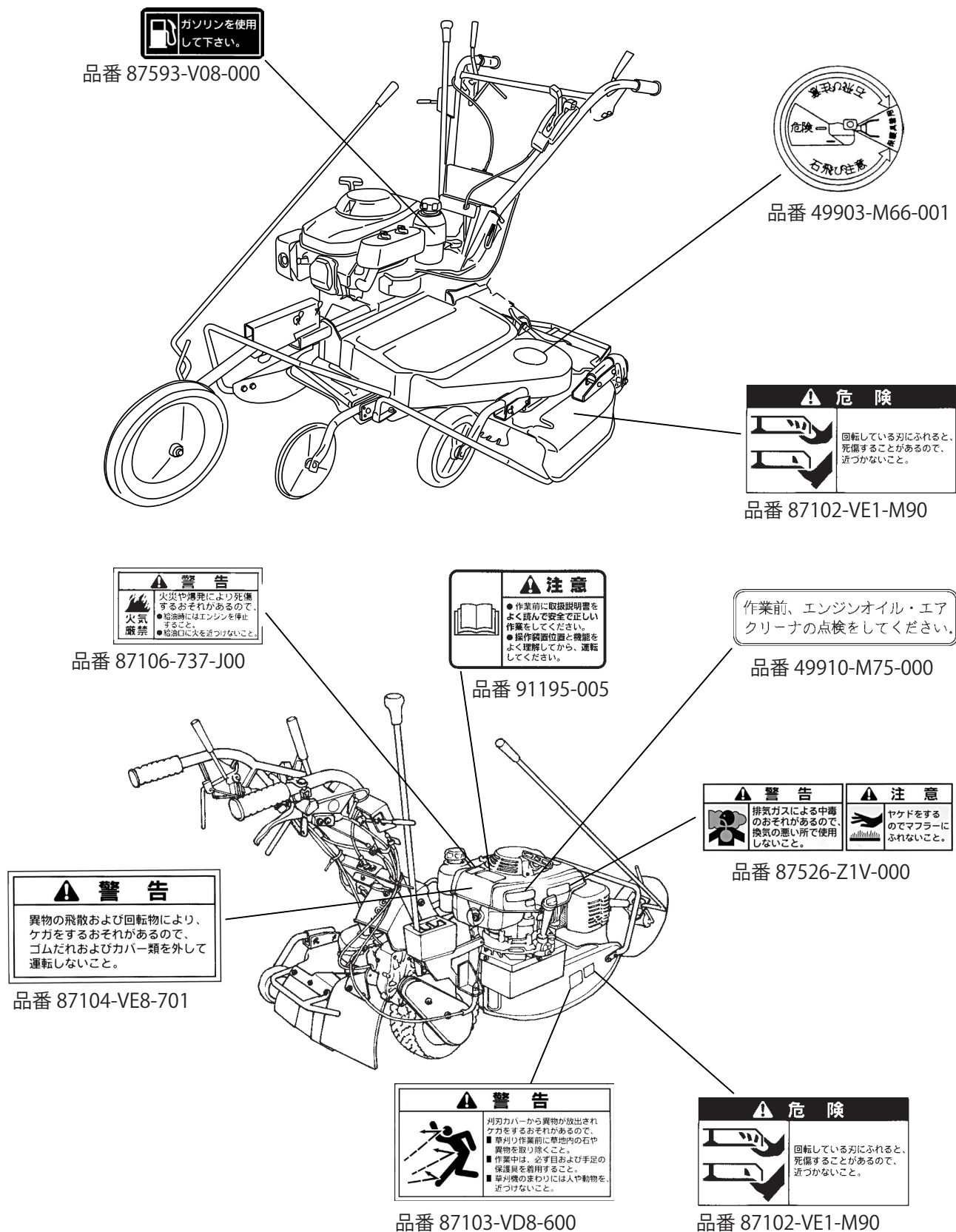
1. 警告ラベルの貼付け位置

警告ラベルは、使用者および周囲の作業員などへの危険を知らせる大事なものです。

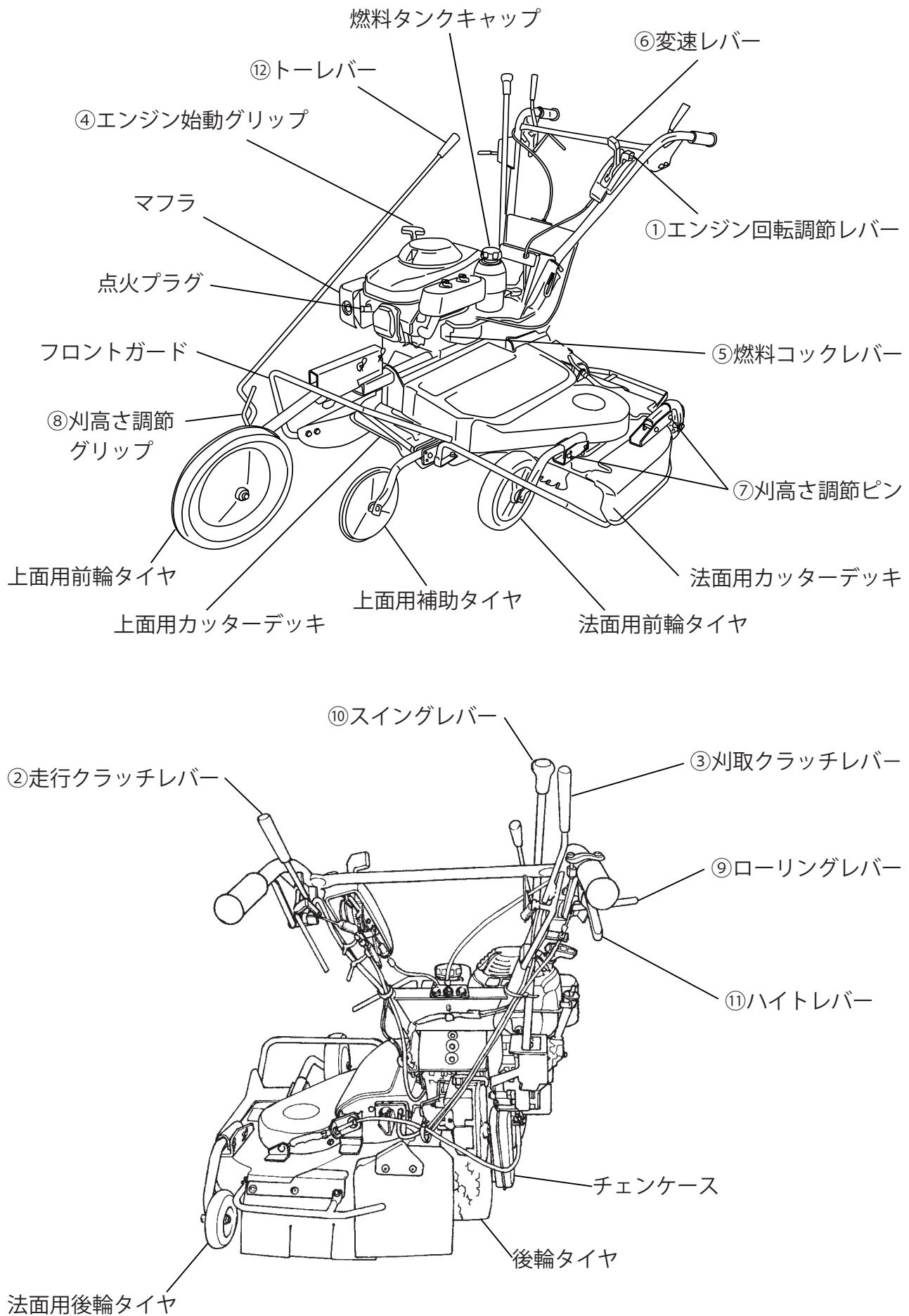
- ・ラベルが損傷した場合はできるだけ早く貼り替えてください。

なお、注文の際には、この図に示す部品番号をお知らせください。

- ・高圧洗浄機で洗うと、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。
高圧水を直接ラベルにかけないでください。



2. 各部の名前



3. 操作レバー関係の取扱い要領

①エンジン回転調節レバー

エンジン回転の調節を行うレバーです。エンジン始動時、運転中、停止時に操作します。



チョーク：始動時位置



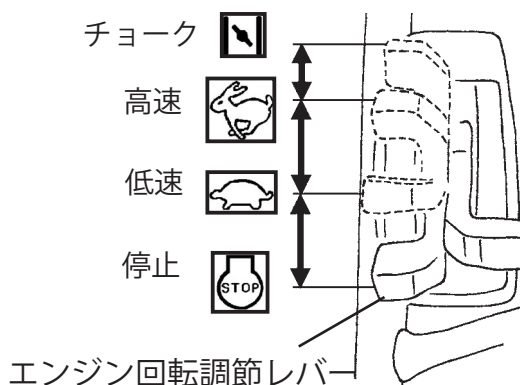
高 速：エンジン回転が上がる



低 速：エンジン回転が下がる



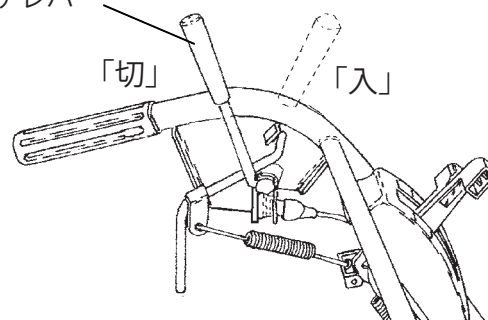
停 止：エンジンが停止する



②走行クラッチレバー

本機の走行と停止を行うレバーです。

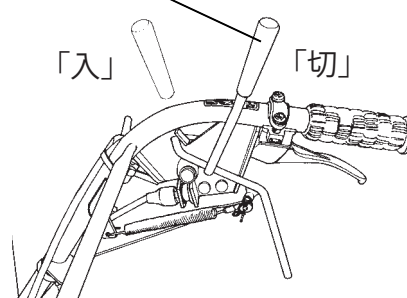
走行クラッチレバー



③刈取クラッチレバー

刈刃の作動と停止を行うレバーです。

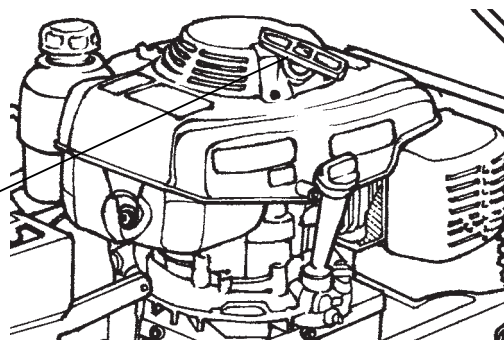
刈取クラッチレバー



④エンジン始動グリップ

エンジンの始動を行うグリップです。

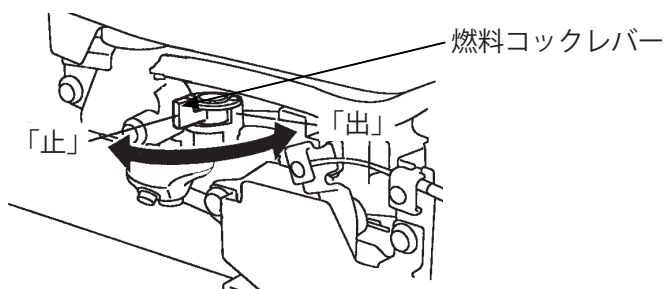
エンジン始動グリップ



3. 操作レバー関係の取扱い要領

⑤燃料コックレバー

燃料タンクから気化器の燃料通路を開閉するときに操作するレバーです。
操作は確実に「止」「出」の位置に合わせてください。



⚠ 警告

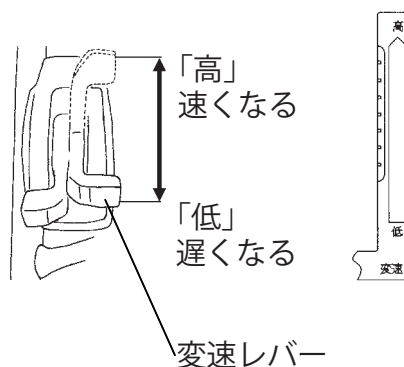
エンジン始動時は刈取クラッチレバーと走行クラッチレバーを「切」位置にし、変速レバーを「低」位置にしてください。

確認

本機には始動けん制装置があり、走行クラッチレバーと刈取クラッチレバーが「入」位置にあるとエンジンが始動しません。

⑥変速レバー

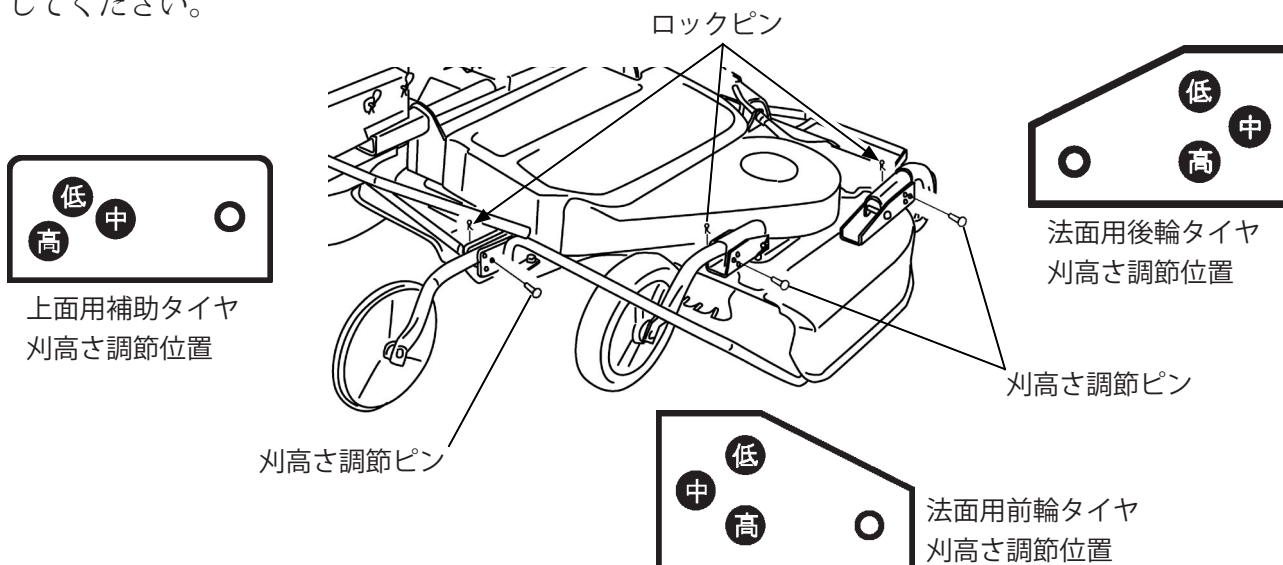
本機の前進車速を変えるレバーです。
無段変速（細かいノッチが付いています。）で、走行中の変速も可能です。



3. 操作レバー関係の取扱い要領

⑦刈高さ調節ピン

上面用補助タイヤと法面用刈刃の刈取り高さを調節するときに操作するピンで、3段階の調節ができます。刈高さ調節ピンを任意の穴位置にセットし、調節後はロックピンを確実にセットしてください。

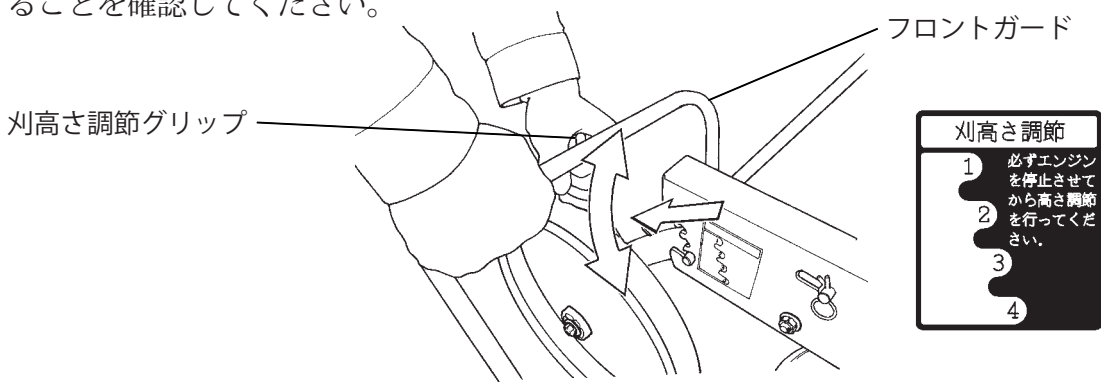


⚠ 注意

必ずエンジンを止め、本機が安定する平坦な場所で行ってください。

⑧刈高さ調節グリップ

上面用刈刃の刈取り高さを調節するときに操作するグリップで、4段階の調節ができます。右手でフロントガードを持ち上げて上面用前輪タイヤを浮かせ、左手で刈高さ調節グリップを引っ張りながら任意の溝位置にセットします。調節後はシャフトが溝に確実にセットされていることを確認してください。



⚠ 注意

- 必ずエンジンを止め、本機が安定する平坦な場所で行ってください。
- 上面用前輪タイヤが地面についている状態で刈高さ調節を行うと、本機が急に下がり危険です。必ずフロントガードを持ち上げて行ってください。指が挟まれるおそれがあります。

3. 操作レバー関係の取扱い要領

⑨ローリングレバー

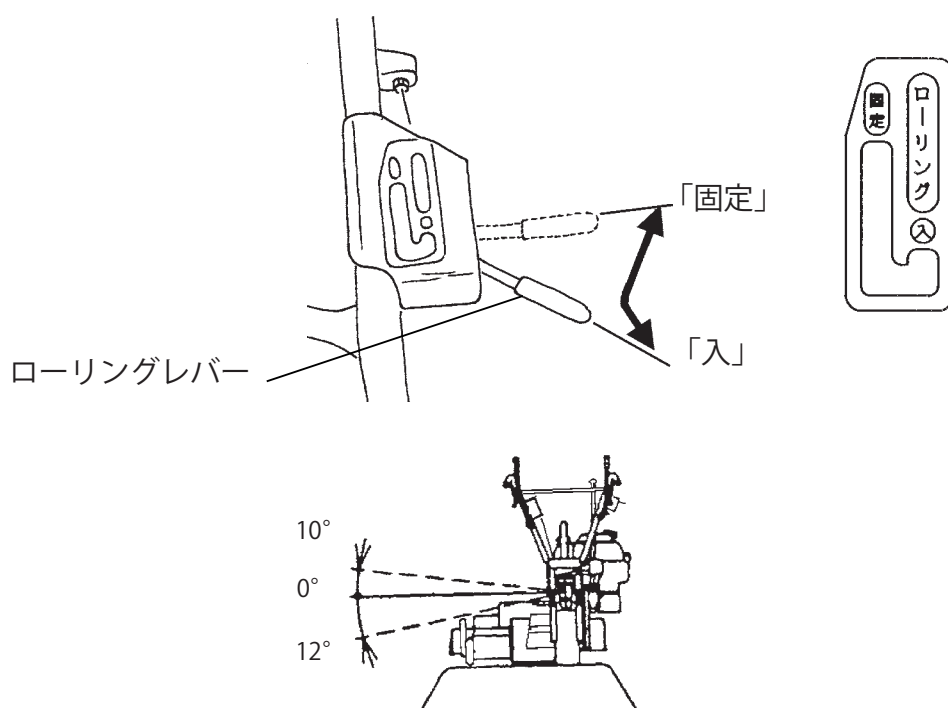
刈取部を左右に傾斜（ローリング）させるときに操作するレバーです。

刈取り作業時、圃場の凸凹に刈取部が追従し、機体のバランスをとりながら走行できるので、本機の走行直進性がよくなります。

「入」：ローリングが作動します。

刈取部が左に約 10° 、右に約 12° の間でローリングします。

「固定」：刈取部を固定します。ハンドルを左右に軽く振って固定されていることを確認してください。



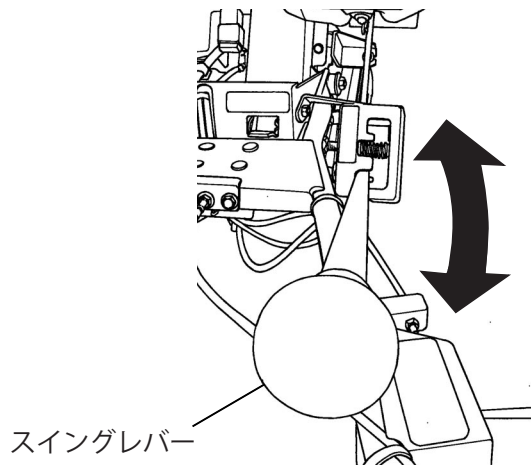
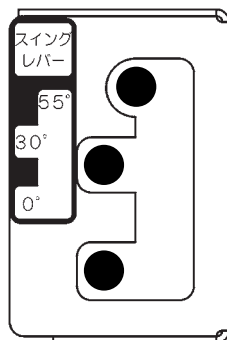
3. 操作レバー関係の取扱い要領

⑩スイングレバー

法面用カッターデッキを傾斜させるときに操作するレバーです。

二面刈り作業時、スイングレバーを " 30° " 又は " 55° " 位置にすると法面用カッターデッキが傾斜（スイング）し、上面と法面の二面同時刈取り作業ができます。

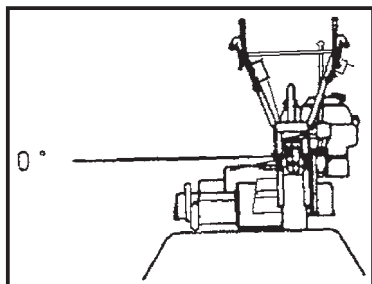
55°	約55°まで傾斜させることができます。
30°	約30°まで傾斜させることができます。
0°	水平に固定します。



0°

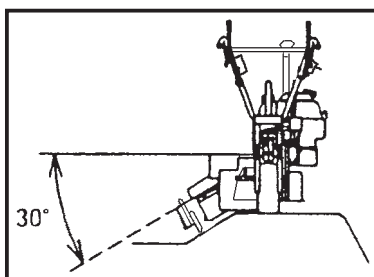
水平に固定

上面作業（一面刈り作業）または、本機移動時に使用します。



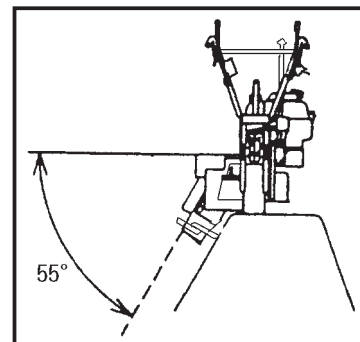
30°

0°～30°間でスイング
二面刈り作業時、法面が短い、または傾斜がゆるいところで使用します。



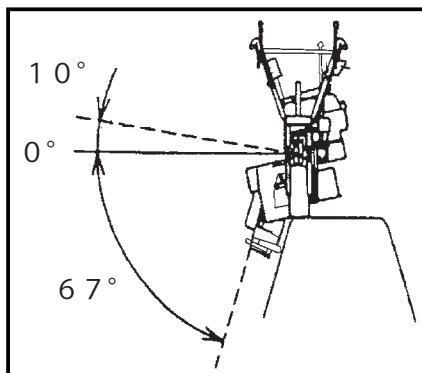
55°

0°～55°間でスイング
二面刈り作業時、法面が長い、または傾斜がきついところで使用します。



ローリング機構とスイング機構の併用

ローリング機構とスイング機構を併用すると、法面用カッターデッキは水平より上に10°～下に67°までの範囲で作動します。

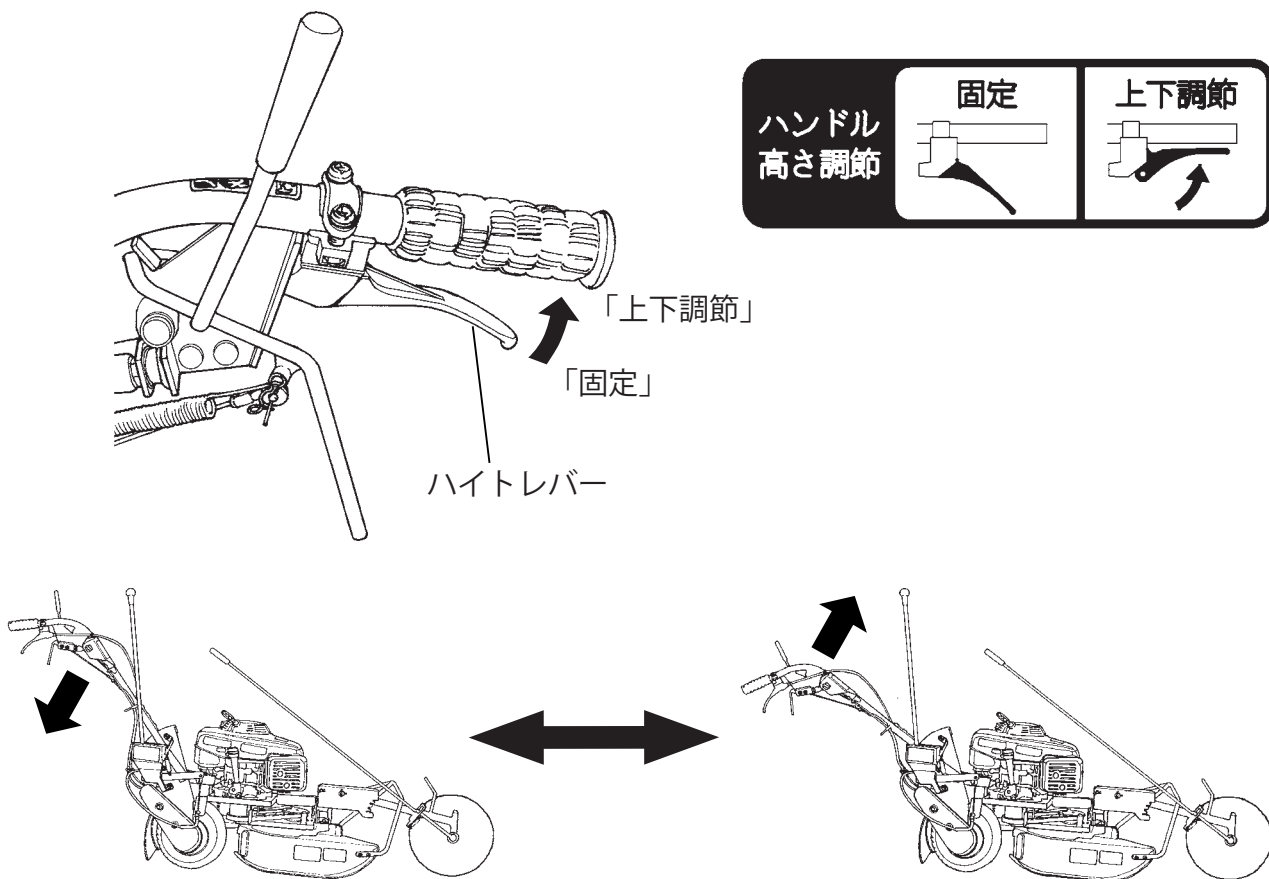


3. 操作レバー関係の取扱い要領

⑪ ハイトレバー

ハンドルの高さを変更するときに操作するレバーです。

ハイトレバーを握るとハンドル固定が解除され、高さを4段階に調節できます。

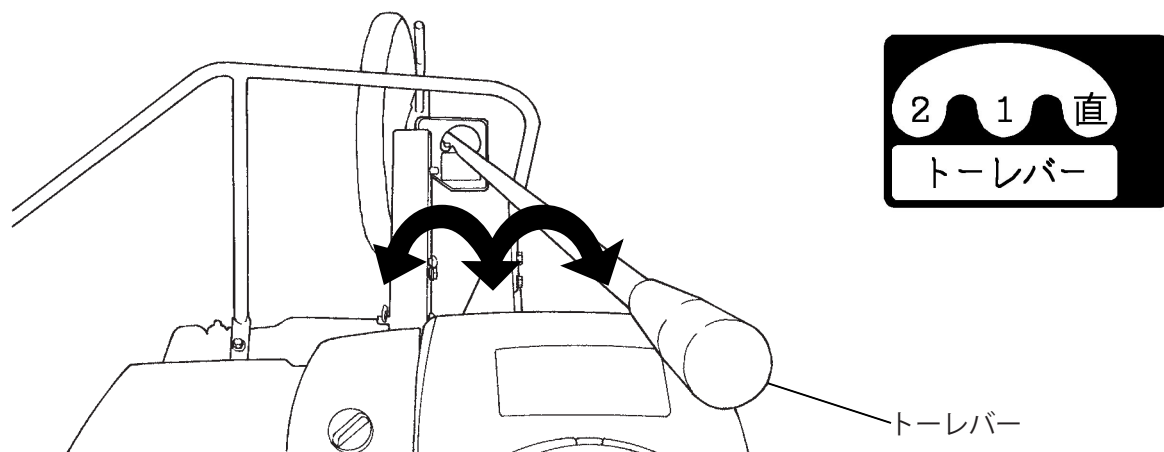


⑫ トーレバー

上面用前輪タイヤを向きを操作するレバーです。

移動時や、平坦な所で刈取を行う場合は「直」位置にします。

二面刈時に本機が左側に流れる際に操作し、「1」「2」位置を選んで直進するようにします。



4. 運転前の準備・点検

快適で安全な作業をするためには、機械の状態をいつも最良にしておくことが大切です。
運転前には、機械の始業点検を行ってください。

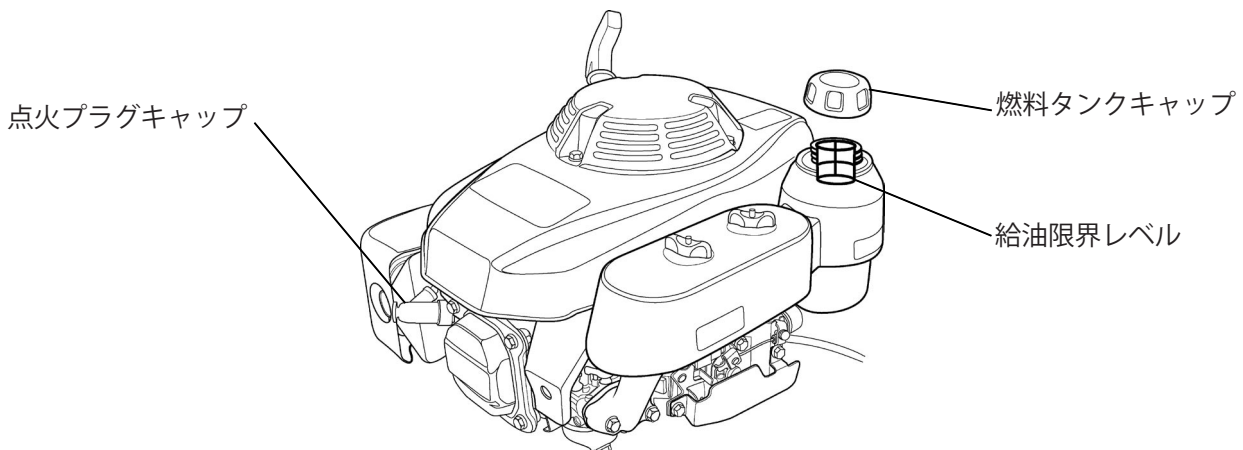
警告

1. 点検・整備を行うときは、必ず平坦なところでエンジンを停止させて行ってください。
2. 燃料補給時は火気厳禁です。燃料補給後は燃料タンクキャップを確実に締め、燃料タンクや燃料パイプ等からの燃料もれがないか点検してください。
守らないと火災事故の原因になります
3. 燃料は給油口の口元まで入れず、所定の給油限界レベルまで補給してください。
入れすぎると燃料が燃料タンクキャップからにじみでることがあり危険です。
4. 燃料はこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布などで完全にふき取り、火災、環境に注意し、処分してください。
5. エンジンが熱い間は、点検・整備などは絶対にしないでください。火傷をするおそれがあります。
6. 点検・整備が終わったら、外したカバー類は必ず元の場所へ取り付けてください。

燃料の点検

●点検

- 1) エンジンを水平な状態にしてください。
- 2) 燃料タンクキャップを外し、残量を確認します。少ないときは補給してください。



●補給

- 1) 燃料タンクキャップを外し、給油限界レベルまで補給します。
- 2) 補給後、燃料タンクキャップを確実に締めてください。

重要

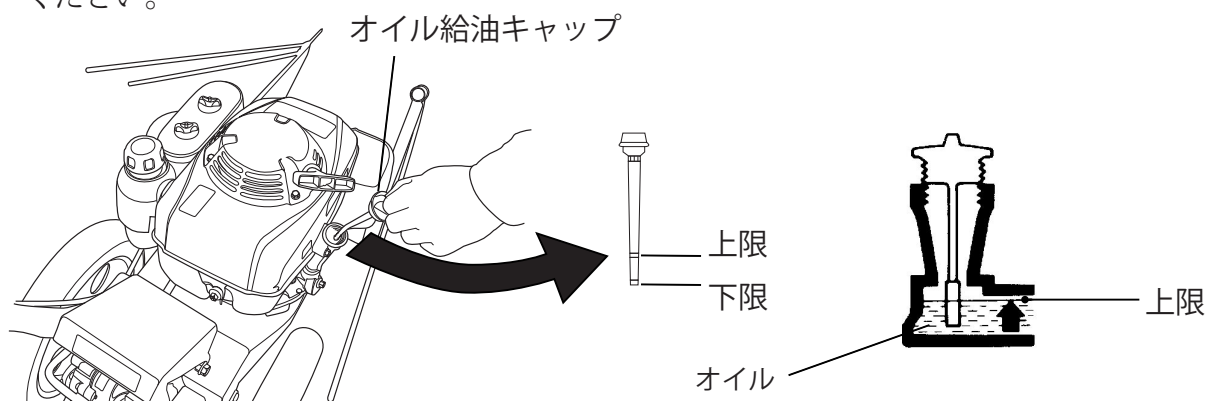
- ・使用燃料・・・無鉛ガソリン
- ・タンク容量・・・1.8リットル

4. 運転前の準備・点検

エンジンオイルの点検

●点検

- 1) エンジンを水平な状態にしてください。
- 2) オイル給油キャップを外してゲージ部のオイルを拭き取り、給油キャップを差込み（ねじ込まない）、オイル給油キャップのレベルゲージまでオイルがあるか点検してください。少ないときは、新しいオイルを補給してください。汚れや変色が著しい場合は交換してください。



●オイルの補給

- 1) オイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給します。
- 2) 補給後、オイル給油キャップを確実に取り付けます。

重要

使用オイル・・・4サイクルガソリンエンジンオイル SAE 10W-30 SE級以上
オイル容量・・・0.65リットル

刃の点検・交換

○使用工具：14ミリメガネレンチ

●点検

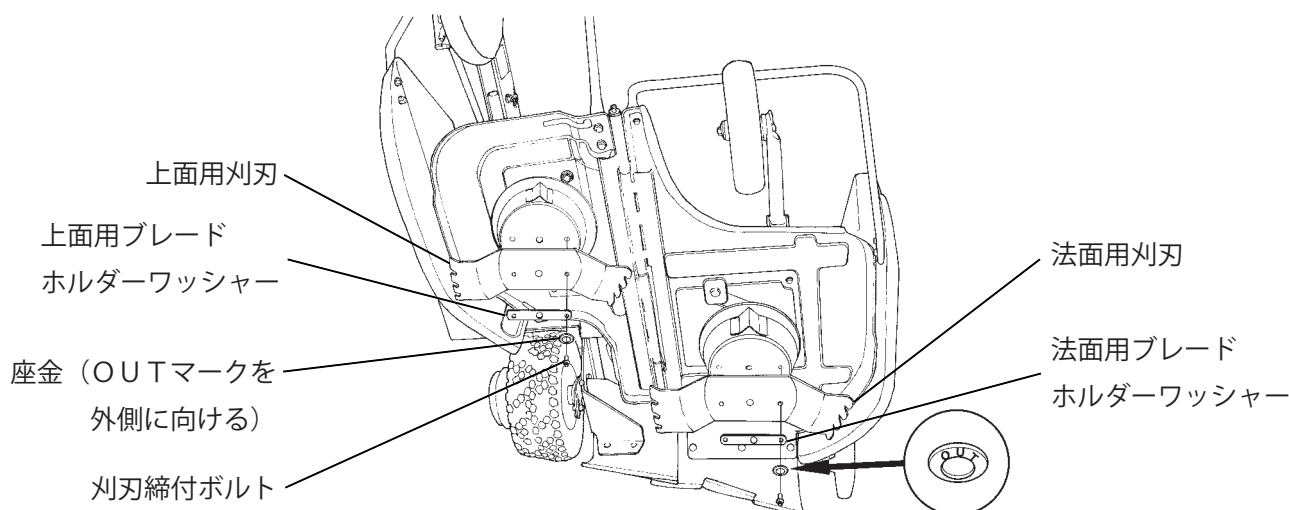
- 1) 刃締付ボルトにゆるみ、脱落、摩耗がないか点検します。
ゆるんでいる場合　：締付けてください。
脱落している場合　：交換し、締付けてください。
摩耗している場合　：交換し、締付けてください。
- 2) 刃にひび、摩耗、欠損がないか点検します。
ひび、摩耗、欠損があった場合には刃を交換してください。



4. 運転前の準備・点検

●交換

- 1) 補助者に、ハンドルを押し下げ、前輪を上げしっかりと固定してもらう。
- 2) 丈夫な皮手袋を装着し、刈刃を回らないように押さえ、刈刃締付ボルトを反時計方向に回し、刈刃・ブレードホルダーワッシャー・座金を取り外す。
- 3) 新しい刈刃の穴をネジ穴にあわせる。
- 4) ブレードホルダーワッシャーに座金の " O U T " マークを外側に向けて取り付け、刈刃締付ボルトをねじ込む。
- 5) 刈刃を回らないように押さえ、刈刃締付ボルトを時計方向に回し、確実に締付ける。



⚠ 警告

- ・刈刃の点検・交換は、一人では行わないでください。必ず二人で行いハンドルをしっかり支えてもらい機体前部が落下しないよう注意してください。
- ・刈刃を交換するときは丈夫な皮手袋を装着して行ってください。
- ・刈刃に直接、触らないでください。

重要

- ・長時間傾斜させたまま放置しないでください。エンジンの始動性が悪くなることがあります。
- ・刈刃が摩耗・欠損した状態のまま使用しないでください。刈り残しや異常な振動の原因になります。

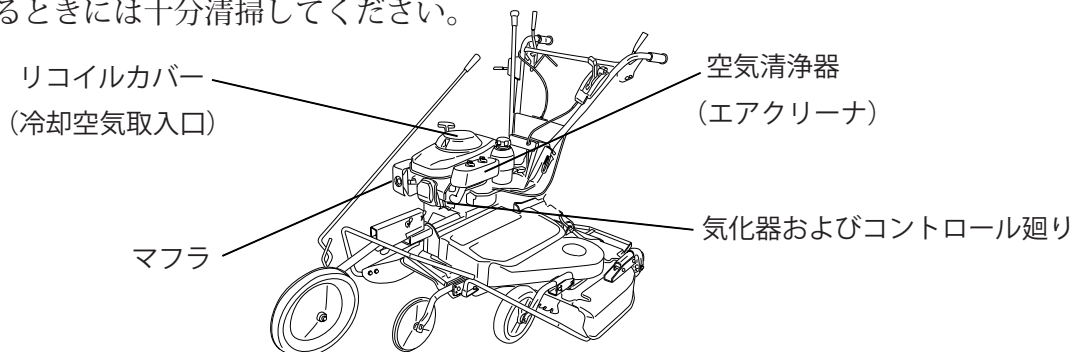
J B - 8 7 0 用 替刃

部品番号	部品名	備考
3 5 9 0 2 - M 7 5 - 0 0 2	ブレード 3 1 0	上面用刈刃
3 5 9 0 1 - M 7 7 - 0 0 1	ブレード 4 3 0	法面用刈刃
3 5 9 0 4 - M 7 5 - 8 0 1	ブレードホルダーワッシャー B	上面用
3 5 9 0 3 - M 7 5 - 8 0 1	ブレードホルダーワッシャー A	法面用
9 0 1 0 5 - 9 6 0 - 0 0 3	ボルト, 6 カク 1 0 × 2 5	刈刃締付ボルト
9 0 4 8 1 - 4 3 0 - 0 0 0	ワッシャー, スプリング 1 0 M M	刈刃用座金

4. 運転前の準備・点検

各部の清掃点検

草刈機（特に下記指定箇所）に刈った草やほこりが付着していないか点検してください。
汚れているときには十分清掃してください。



ゴムイタの点検

○使用工具：10ミリメガネレンチ又はスパナ

⚠ 危険

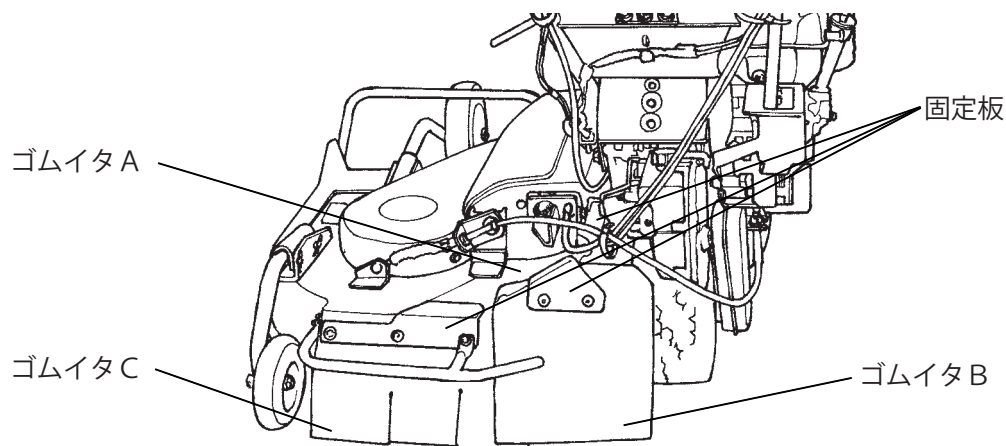
- ・ゴムイタを取り付けない、または損傷したままで作業をしないでください。作業時石などが飛び、ケガをするおそれがあります。

●点検

- 1) 固定ナットにゆるみがないか、点検します。ゆるんでいる場合は締付けてください。
- 2) ゴムイタに損傷（深い傷や欠け等）がなく正しく取り付けられているかどうか点検してください。損傷があった場合には、交換してください。

●交換

- 1) ゴムイタを固定しているナット・固定板を外してください。
- 2) 新しいゴムイタを、ナット・固定板で確実に固定してください。



部品番号	部品名
38902-M77-001	ゴムイタA
38904-M77-002	ゴムイタB
38906-M77-002	ゴムイタC

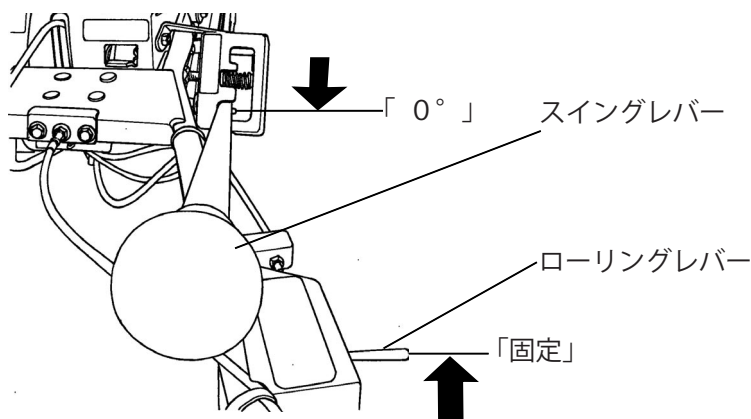
5. エンジンの始動・停止のしかた

警告

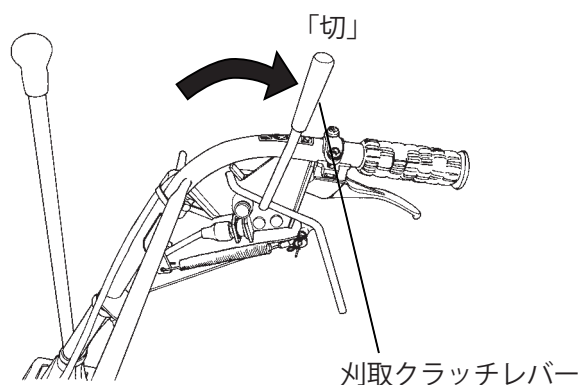
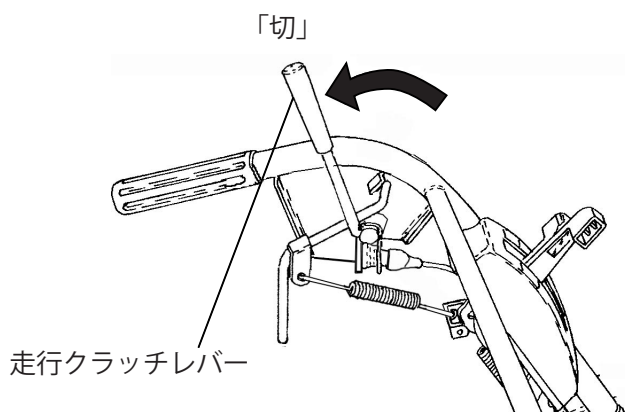
1. エンジンを始動する前に作業前の点検を行ってください。
2. エンジン始動時は、レバー位置と周囲の安全を確認してください。
3. 閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。排気ガスによる中毒を起こす危険があります。十分な換気を行うか、風通しのよい屋外で始動してください。

エンジン始動のしかた

- 1) スイングレバーを「0°」位置、ローリングレバーを「固定」位置にし、ハンドルを左右に軽く振って固定されていることを確認してください。



- 2) 走行クラッチレバーと刈取クラッチレバーが「切」位置になっていることを確認してください。

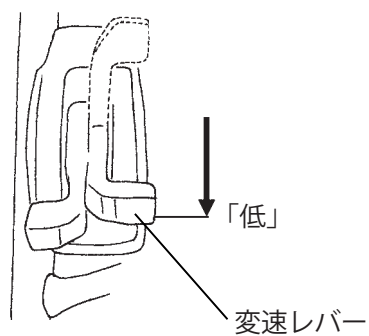


確認

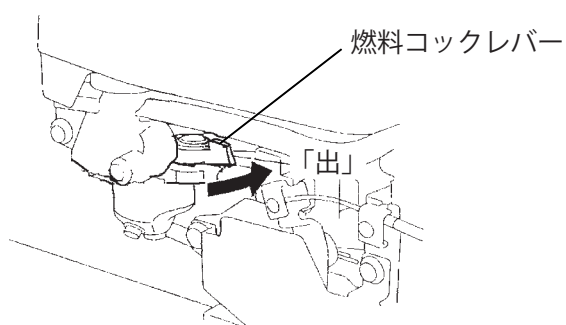
本機には始動けん制装置があり、走行クラッチレバーと刈取クラッチレバーが「入」位置にあるとエンジンが始動しません。

5. エンジンの始動・停止のしかた

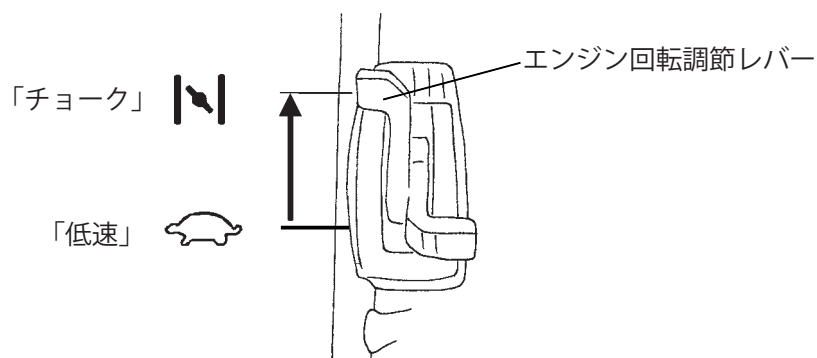
3) 変速レバーを「低」位置にします。



4) 燃料コックレバーを「出」位置にします。

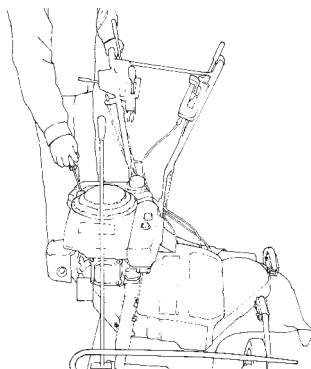


5) 寒いときや、エンジンがかかりにくいときはエンジン回転調節レバーを「チョーク」位置にします。エンジンが温まっているとき、または気温が高いときは「低速」の位置にします。



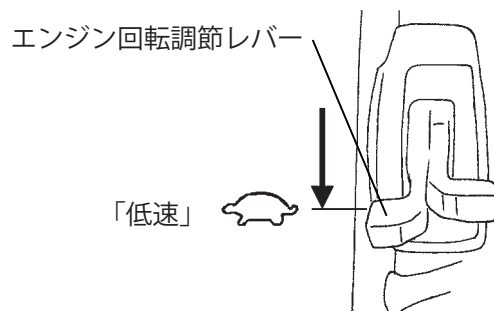
6) エンジン始動グリップを重くなる位置まで引き、そこから勢いよく引きます。

- ・ エンジンの始動は草刈機が安定する平坦な場所で行ってください。
- ・ 草刈機が転倒しないようにハンドルを支えてください。



5. エンジンの始動・停止のしかた

- 7) 2～3分暖機運転を行います。「チョーク」位置で始動したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら、「低速」位置に合わせます。暖機運転を行うことは、エンジン各部にオイルを行きわたらせ、エンジンの寿命を長持ちさせます。



⚠ 注意

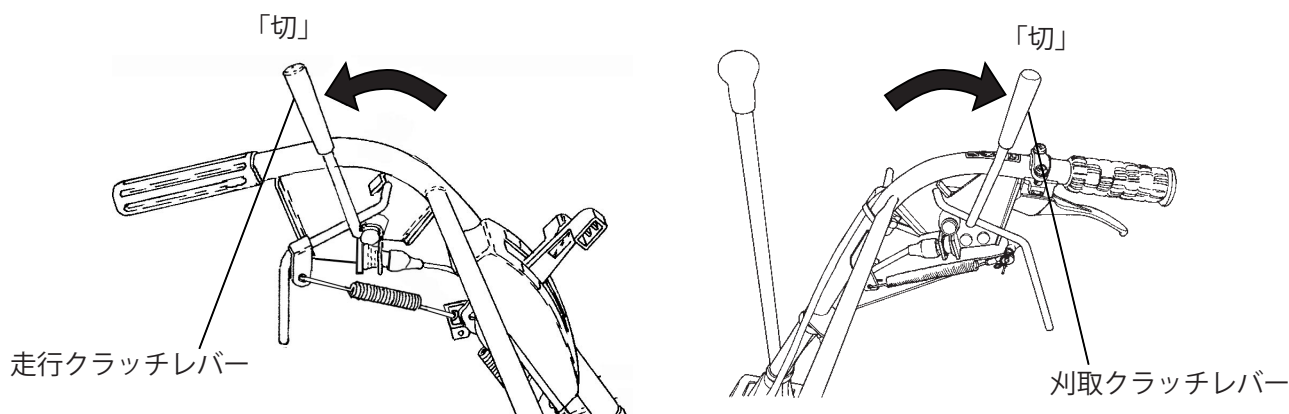
- エンジンの始動は草刈機が安定する平坦な場所で行ってください。
- エンジン始動時、エンジン始動グリップを引くときは、後方に人やものがないか確認してください。

重要

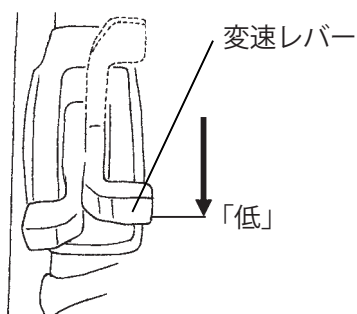
- エンジン始動後はすぐに負荷をかけず、必ず暖機運転を行ってください。
- 運転中はエンジン始動グリップに手を触れないでくださいエンジンに悪影響を与えます。
- エンジン始動グリップは手を添えて静かに戻してください。

エンジン停止のしかた

- 1) 刈取クラッチレバー、走行クラッチレバーを「切」位置にします。

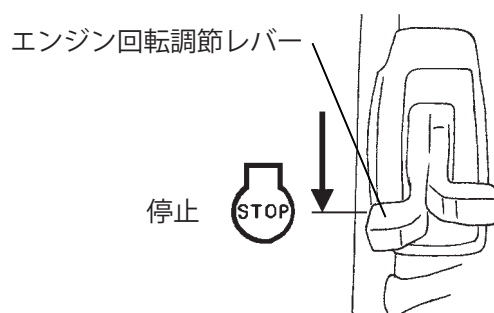


- 2) 変速レバーを「低」位置にします。

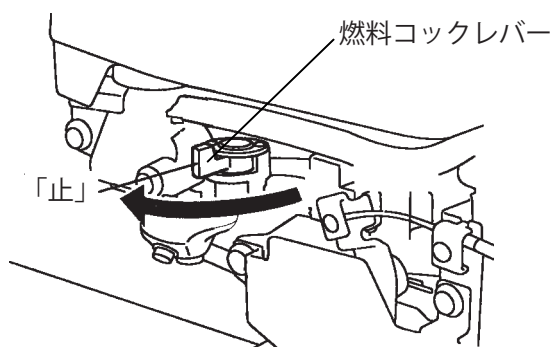


5. エンジンの始動・停止のしかた

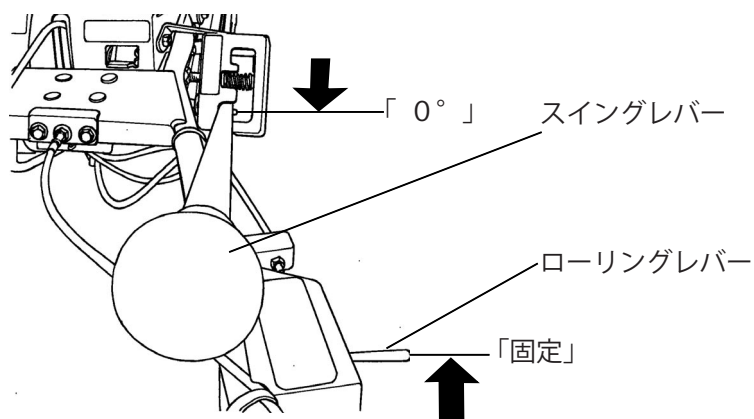
- 3) エンジン回転調節レバーを「停止」位置にします。



- 4) 燃料コックレバーを「止」位置にします。



- 5) スイングレバーを「0°」位置、ローリングレバーを「固定」位置にし、ハンドルを左右に軽く振って固定されていることを確認してください。



重要

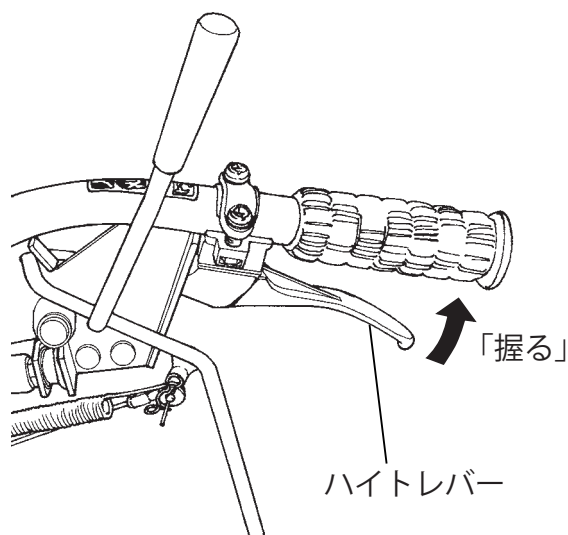
エンジンの停止は草刈機が安定する平坦な場所で行ってください。

6. 運転操作のしかた

各レバーの操作方法については、「3. 操作レバー取扱い要領」（18～23ページ）を参照してください。

ハンドル高さ調整のしかた

- ハンドル高さは4段階に調整することができます。作業者に合わせて調節してください。
ハイトレバーを握った状態にするとハンドルを上下させることができます。



発進のしかた

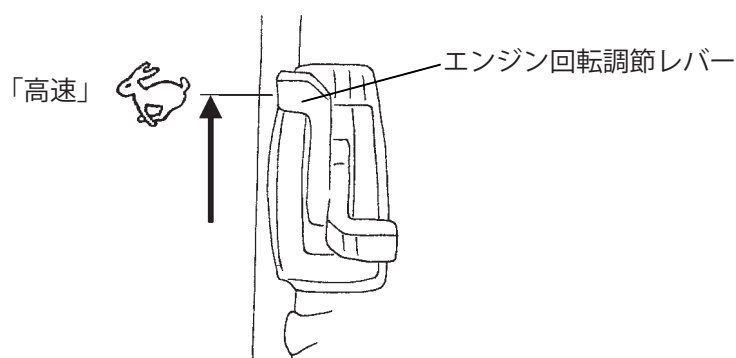
⚠ 危険

移動時は必ず刈取クラッチレバーを「切」位置にしてください。

⚠ 警告

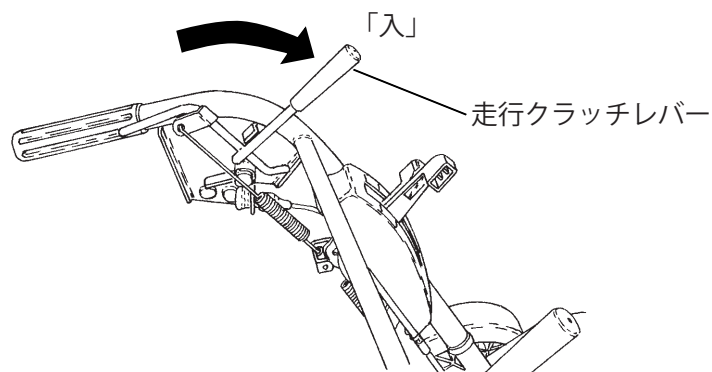
発進時は周囲の安全を確かめて発進してください。

- 1) エンジンを始動します。
「5. エンジンの始動・停止のしかた」（28～31ページ）を参照してください。
- 2) エンジン回転調節レバーを「高速」側に動かし、エンジン回転を上げます。

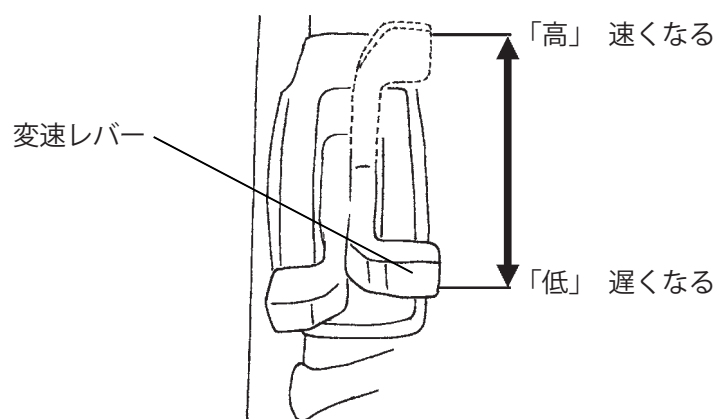


6. 運転操作のしかた

3) 走行クラッチレバーを「入」位置にします。

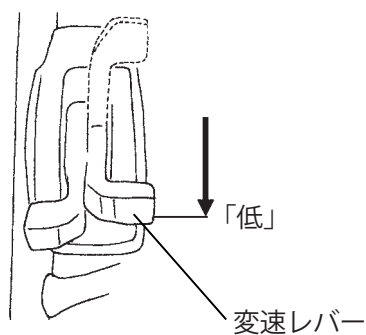


4) 変速レバーを任意の位置までゆっくりと動かします。

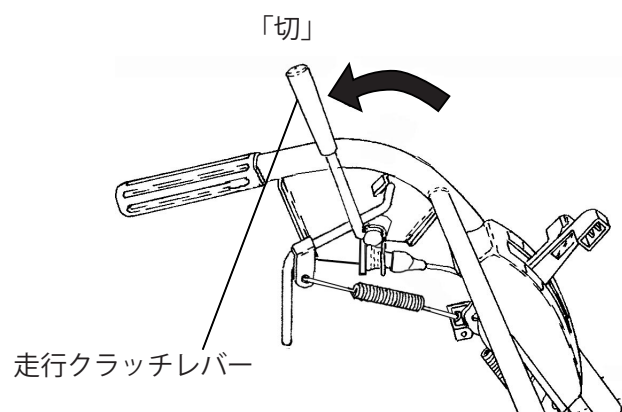


停止のしかた

1) 変速レバーを「低」位置にします。

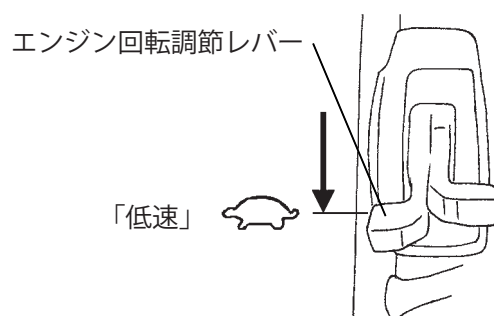


2) 走行クラッチレバーを「切」位置にします。



6. 運転操作のしかた

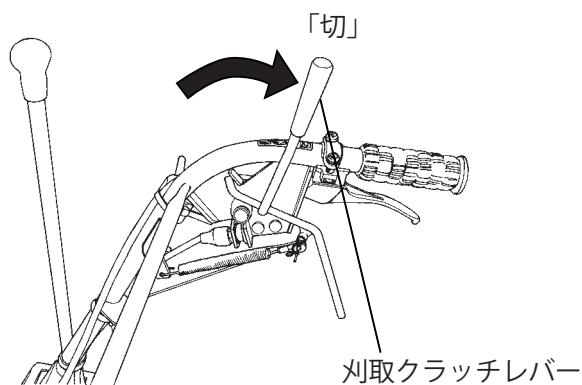
- 3) エンジン回転調節レバーを「低速」側に戻してエンジン回転を下げます。



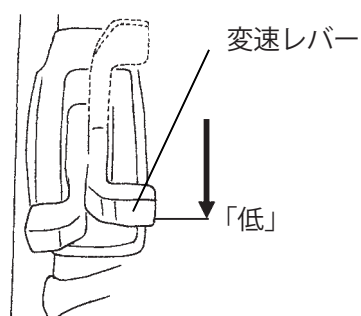
- 4) エンジンを停止します。「5. エンジンの始動・停止のしかた」(28～31ページ)を参照してください。

移動・旋回のしかた

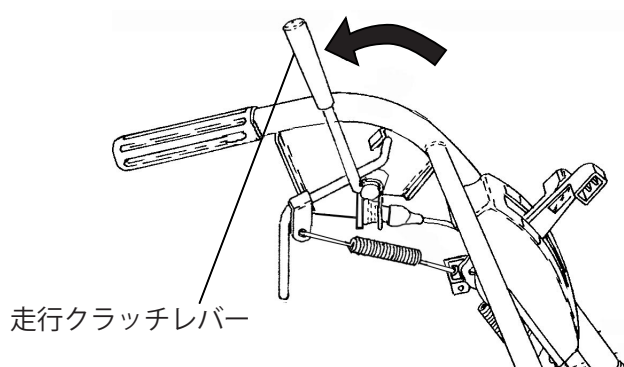
- 1) 刈取クラッチレバーを「切」位置にします。



- 2) 変速レバーを「低」位置にします。

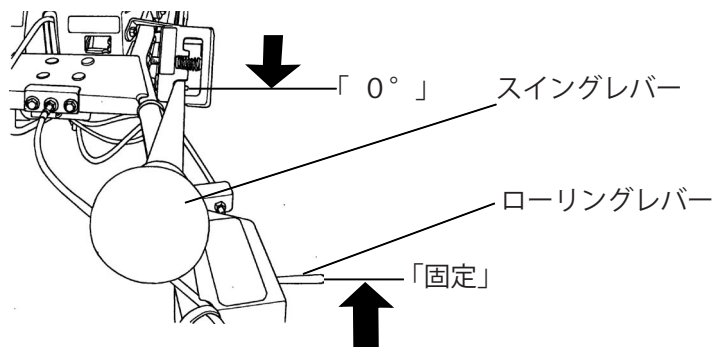


- 3) 走行クラッチレバーを「切」位置にします。

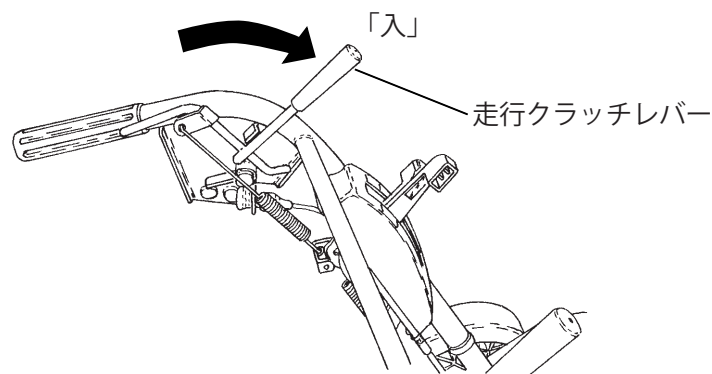


6. 運転操作のしかた

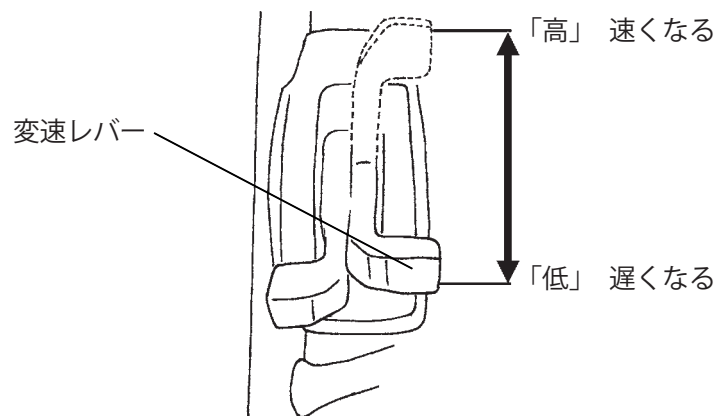
- 4) スイングレバーを「0°」位置、ローリングレバーを「固定」位置にし、ハンドルを左右に軽く振って固定されていることを確認してください。



- 5) 走行クラッチレバーを「入」位置にします。



- 6) 変速レバーを任意の位置までゆっくりと動かします。



- 7) 旋回時はハンドルを手で押し下げ、前輪を浮かせ、法面用後輪タイヤが地面から離れた状態で行ってください。

⚠ 注意

旋回時は低速の状態でハンドルをしっかり持って、慎重に行ってください。

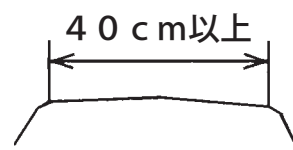
重要

前輪または、法面用車輪が地面に付いた状態で旋回すると、前輪・法面用後輪あるいはアームが破損するおそれがあります。

刈取り作業のしかた

警告

- ・刈取り作業は天場（畦の上面の幅）が40 cm以上のところで行ってください。
- ・畦には境界線や測定用の杭を打ち込んでいるところがあります。あらかじめ位置を確認し、刈取り作業時はその場所を避けてください。作業中にぶつくと重大な事故の原因になります。



1) 刈取り高さを調節します。

- ・作業条件に合わせて刈高さ調節レバーと刈高さ調節ピンで調節します。

操作方法は「3. 操作レバー関係の取扱い要領」(18～23ページ)を参照してください。

- ・畦の土を削らないよう、また、草丈によって調節してください。

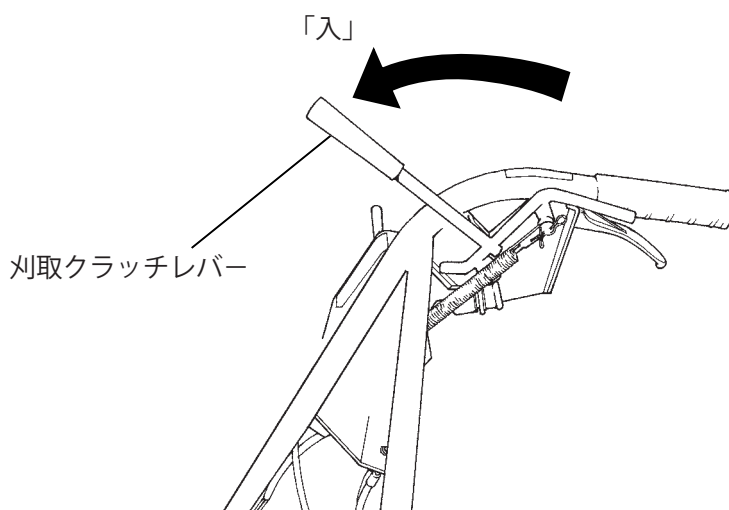
注意

- ・必ずエンジンを止めて調節を行ってください。
 - ・上面用前輪タイヤが地面についている状態で高さ調節を行うと、本機の重みで急に最下段まで下がり危険です。必ずフロントガードを持ち上げてから行ってください。(20ページを参照)
- 指が挟まれるおそれがあります。

2) 作業条件に合わせてローリングレバーとスイングレバーで刈取部を調節してください。

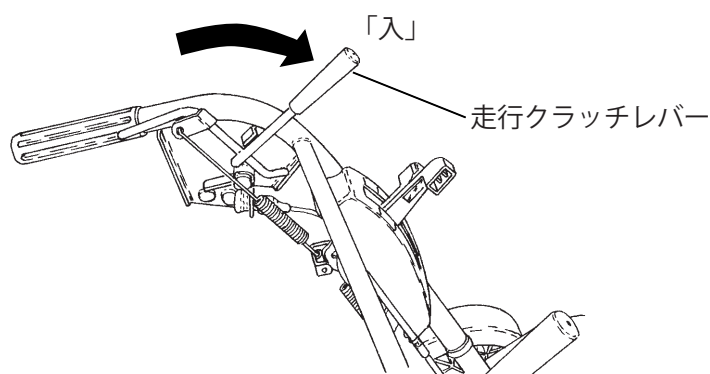
操作方法は「3. 操作レバー関係の取扱い要領」(18～23ページ)を参照してください。

3) 刈取クラッチレバーを「入」位置にします。

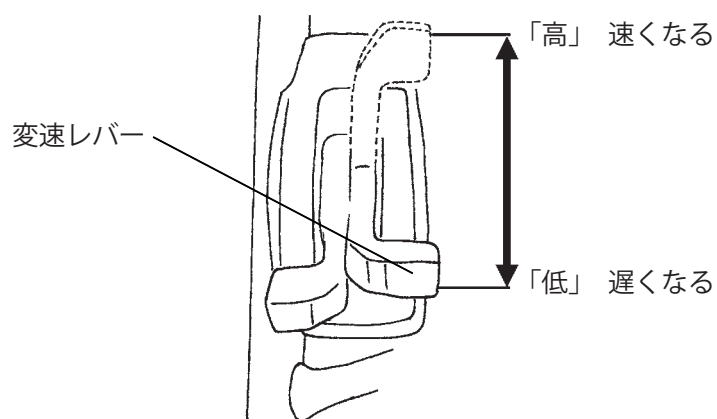


6. 運転操作のしかた

4) 走行クラッチレバーを「入」位置にします。



5) 変速レバーをゆっくりと任意の位置まで動かします。



刈取り作業のポイント

・刈取り作業はエンジン回転を落とさずに行うことが重要です。次の要領を参考にして、草の種類、草地条件に適した刈りかたをしてください。

●柔らかい密生した草などで作業中にエンジン回転数が下がる時には、次のいずれかの方法により作業を行ってください。

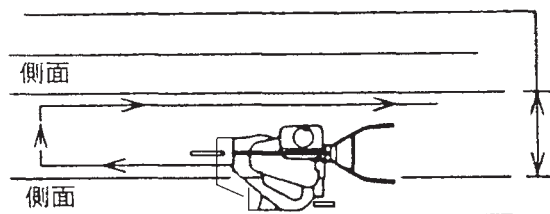
- ・変速レバーを「低」位置にし、エンジン回転数の回復後、変速レバーを元の位置に戻して再度作業を行う。
- ・エンジン回転が低下しない車速で作業を行う。
- ・草の条件に応じて刈幅を狭める。
- ・刈取り高さを高くする。

6. 運転操作のしかた

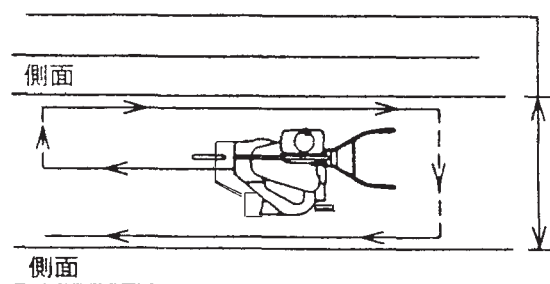
●刈取りパターン

刈取った草は本機後輪タイヤ左側（刈取部中央）に放出されます。草が水田に入らないように下記のように刈取ってください。

★畦の天場巾が狭いとき

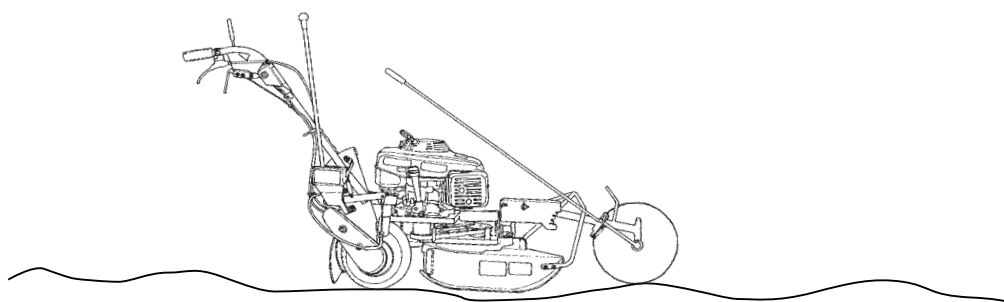


★畦の天場巾が広いとき



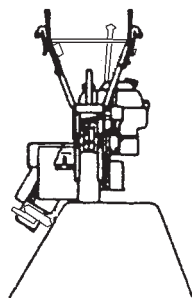
●起伏

起伏の多いところでの刈取りは、変速レバーを「低」側にし、足元に注意してハンドルをしっかり持ち、作業してください。



●狭い場所での安定走行の要領

畦等の狭い場所では本機（ハンドル）を軽く左右に振ると安定した走行が得られます。

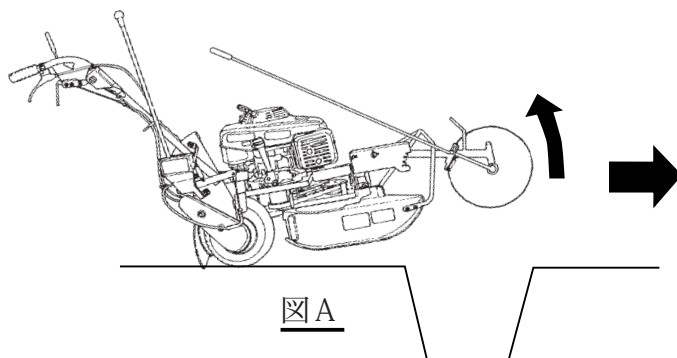


6. 運転操作のしかた

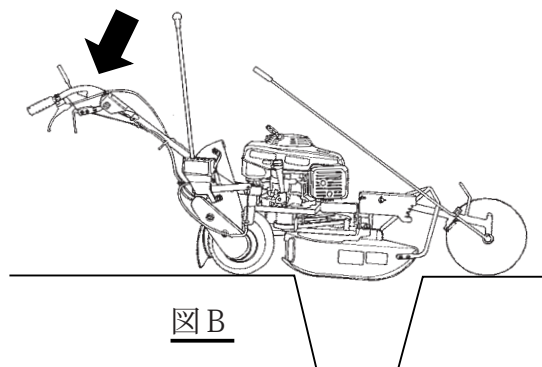
●取水口の通過

取水口を通過するときは、以下の手順で行ってください。

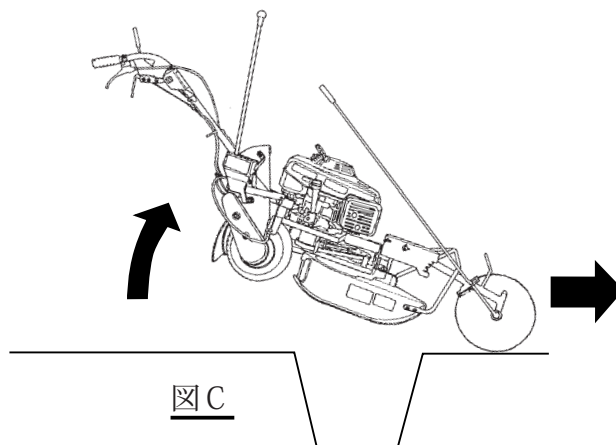
- 1) 刈取クラッチレバーと走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。
- 2) ローリングレバーを「固定」位置、スイングレバーを「0°」位置にしてください。
- 3) ハンドルを押し下げて前輪をうかせた状態で、手押しで前進してください。(図A 参照)
- 4) 前輪が取水口を通過したら前輪を接地させて、ハイトレバーを握って持ち上げやすい位置までハンドル高さを下げます。(図B 参照)
- 5) ハンドルを持ち上げて後輪を浮かせた状態で、手押しで前進してください。(図C 参照)
- 6) 取水口通過後は、ハンドルを元の位置に戻してください。



図A



図B



図C

⚠ 注意

運転操作をする場合は、足元に注意してハンドルをしっかりと持ち、転倒・転落に注意してください。

重要

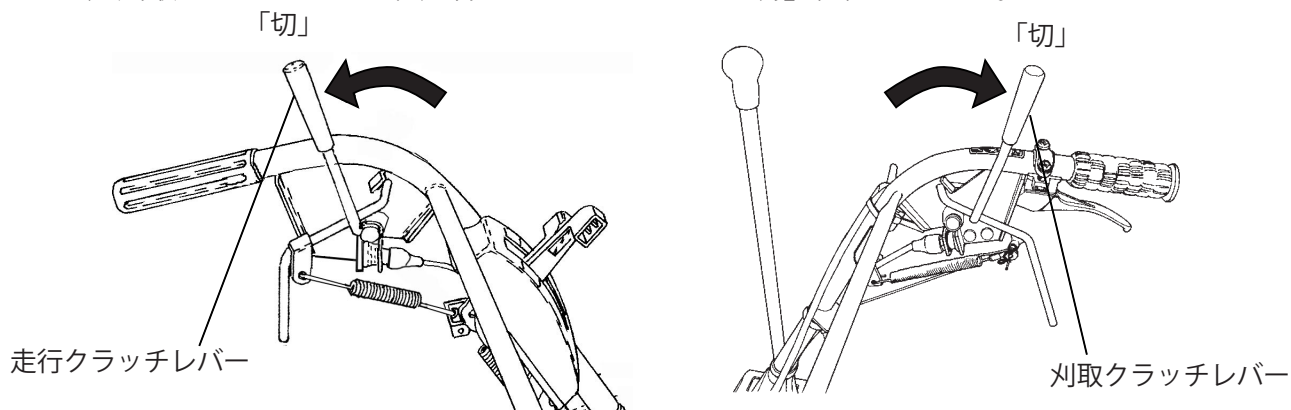
後輪につる草や異物（布、ロープ、針金等）が巻きついた場合は、直ちに刈取クラッチレバーと走行クラッチレバーを「切」位置にし、エンジン回転調節レバーを「停止」位置にして作業を中止してください。

そのまま走行を続けると、本機を破損する原因になります。

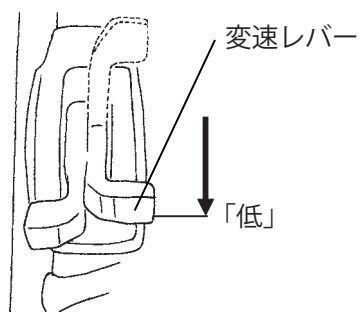
7. 草刈機のとめかた

草刈機をとめておくときは、平坦で安定した場所においてください。

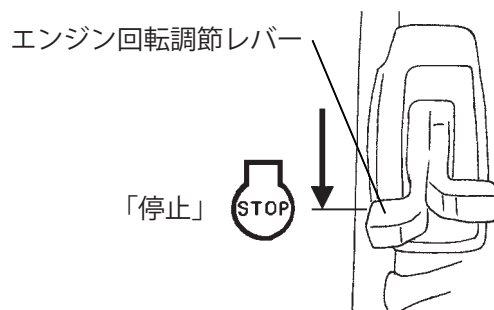
- 1) 刈取クラッチレバー、走行クラッチレバーを「切」位置にします。



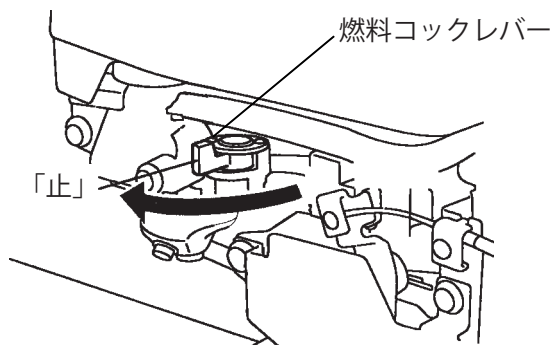
- 2) 変速レバーを「低」位置にします。



- 3) エンジン回転調節レバーを「停止」位置にします。

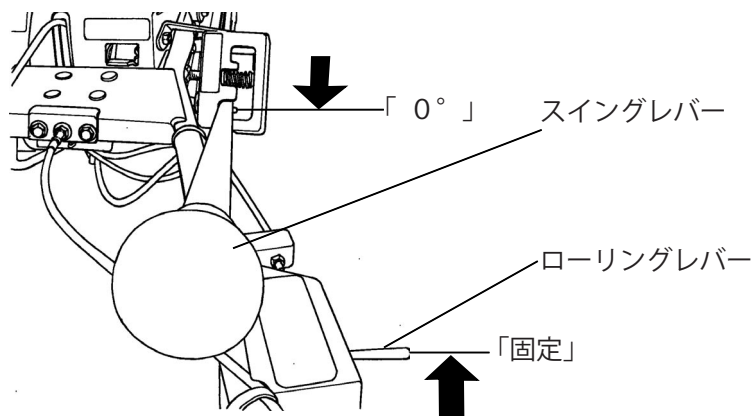


- 4) 燃料コックレバーを「止」位置にします。



7. 草刈機のとめかた

- 5) スイングレバーを「0°」位置、ローリングレバーを「固定」位置にし、ハンドルを左右に軽く振って固定されていることを確認してください。



8. 定期点検

この取扱説明書に記載されている、お客様ご自身で行っていただける点検・整備項目の他に、お買い上げいただいた販売店で定期的実施していただく項目があります。

本機を調子よく長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

警告

- ・点検、整備を行うときは、必ず平坦なところでエンジンを停止してから行ってください。
- ・燃料補給時は火気厳禁です。燃料補給後は燃料給油キャップを確実に締め、燃料タンクや燃料パイプ等からの燃料もれがないか点検してください。守らないと火災事故の原因になります。
- ・エンジンの熱い間は、点検、整備等は絶対にしないでください。ヤケドをするおそれがあります。
- ・点検、整備、清掃などで取り外したカバー類は必ず元の位置に取り付けてください。

項 目	毎 日	20時間	50時間 (又は年一回)	100時間 運転毎	参照ページ
各部の清掃	○				27
ゴムイタの点検	○				27
エンジンオイルの点検	○				25
エンジンオイルの交換		○	○		43
エアクリーナの点検	○				45
エアクリーナの清掃			○		45
点火プラグの清掃				○	46
刈刃締付ボルトのゆるみ点検 ブレードホルダ固定ボルトの点検 刈刃の点検	○				25
ミッションオイルの点検			○<注1>		—
ベルトの点検			○<注1>		—
スロットルワイヤー点検 / 調整		○<注1>		○<注1>	—
変速レバーケーブル点検 / 調整		○<注1>		○<注1>	—
刈取りクラッチワイヤー点検 / 調整		○<注1>		○<注1>	—
燃料チューブ交換	2年毎				—

<注1>これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買い上げ販売店にお申しつけください。

重要

交換後のエンジンオイル、ミッションオイル等はゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令*で義務付けられています。法令*に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買い上げになったお店にご相談の上、処理してください。

※廃棄物処理法、水質汚濁防止法

9. 点検・整備

エンジンオイルの交換

○使用工具：10ミリメガネレンチ 又はスパナ

⚠ 注意

エンジン停止直後は、エンジン本体の温度や油温が高くなっています。エンジンが十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

重要

- ・オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行いましょう。
- ・オイル給油キャップ・オイル排油ボルトは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルがにじみ出ることがあります。

- ・エンジンオイルが汚れているとエンジンの寿命を著しく縮めます。毎日運転前にエンジンオイルの点検を行ってください。

点検方法は「4. 運転前の準備・点検」（24～27ページ）を参照してください。

●交換時期

初回20時間使用後、以後50時間又は刈取時期始め

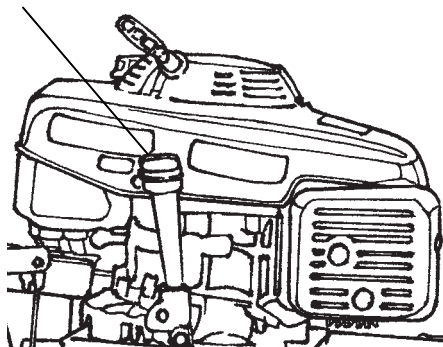
重要

使用オイル・・・・・ 4サイクルガソリンエンジンオイル SAE10W-30 SE級以上
オイル容量・・・・・ 0.65リットル

●交換のしかた

- 1) オイル給油キャップを外します。

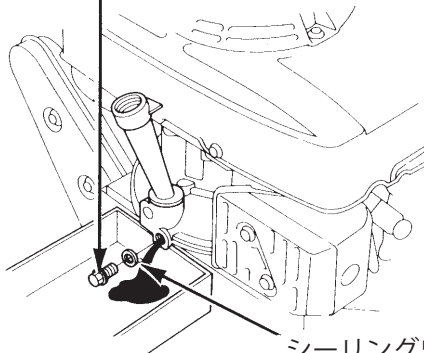
オイル給油キャップ



9. 点検・整備

2) オイル排油ボルトを外して、エンジンオイルを抜きます。

オイル排油ボルト

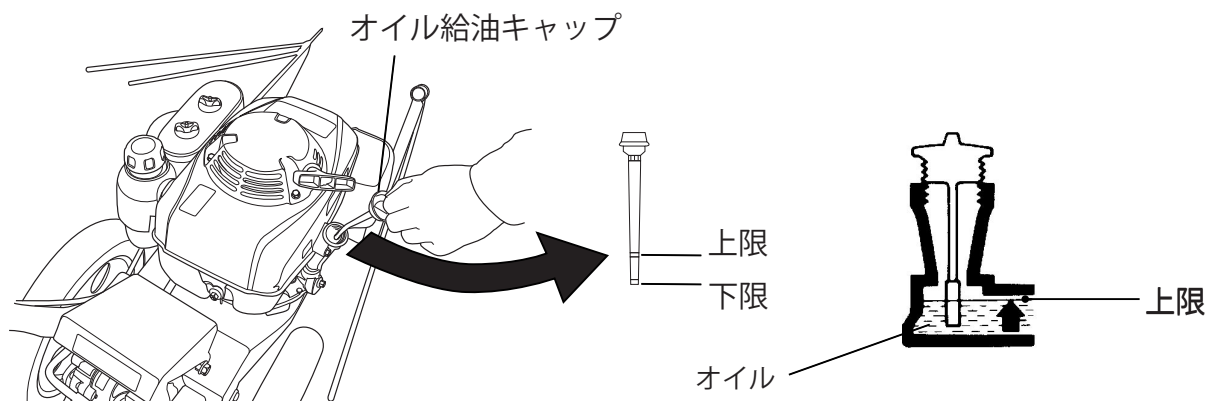


シーリングワッシャ

部品番号：90601-ZE1-000

3) 排油ボルトをきれいに洗い、新しいシーリングワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。

4) エンジンオイルをオイル給油キャップのレベルゲージで確認しながら上限まで注入します。(給油キャップはねじ込まず差し込んで確認します)



5) 注入後、オイル給油キャップを手で確実に締付けます。

重要

- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令※で義務付けられています。法令※に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買い上げになったお店にご相談の上、処理してください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

※廃棄物処理法、水質汚濁防止法

エアクリーナ（空気清浄器）の点検・清掃

エアクリーナ（空気清浄器）が汚れにより目づまりをすると、出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃してください。

●点検のしかた

- 1) チョウナットを外し、エアクリーナカバーを外します。
- 2) ろ過部（ウレタン・紙）の汚れを点検します。
- 3) ゴミやチリが付着していたら、ろ過部の清掃を行ってください。

●清掃時期

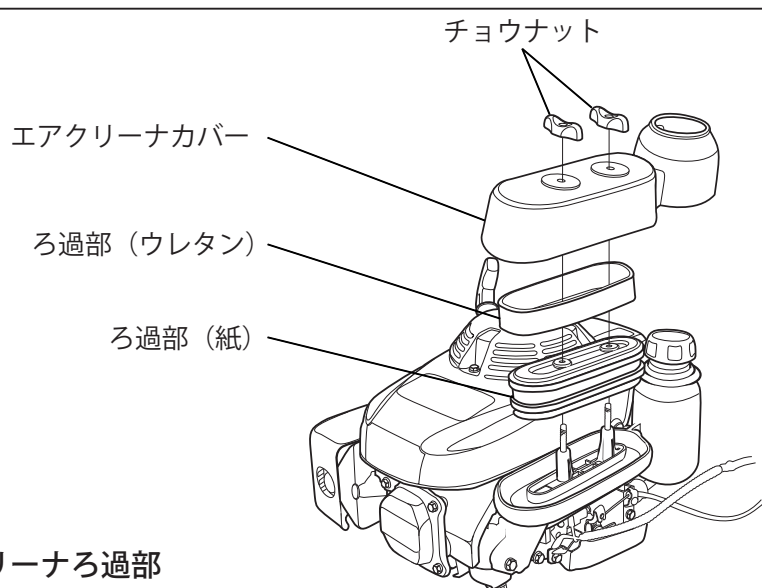
50時間運転毎。ホコリの多いところで使用した場合は1日1回、又は10時間毎。

●清掃のしかた

- 1) チョウナットを外し、エアクリーナカバーを取り外します。
- 2) ウレタンのろ過部は中性洗剤を水で薄めて洗い、さらに水ですすいでから圧縮空気を吹き付けるか、又はよく絞って乾かします。次にエンジンオイルに浸したあと、固く絞ってから取り付けます。
- 3) 紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹き付けるか、又は軽くたたいて汚れを落とします。汚れのひどい場合は交換してください。

重要

- ・エアクリーナカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- ・エアクリーナカバーやろ過部を正しく取り付けないと、エンジンに悪影響を与える原因になります。



エアクリーナろ過部

部品番号	部品名	備考
17210-Z1V-003	エレメント	紙+ウレタン セット
17218-888-003	フィルター	ウレタンのみ

点火プラグの点検・清掃

○使用工具：プラグレンチ

！ 注意

エンジン停止直後は、エンジン本体、油温が高くなっていますので、エンジンが冷めてから作業を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

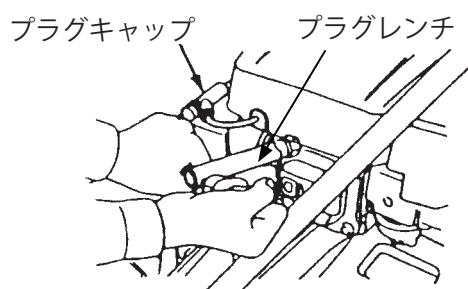
電極が汚れたり、電極すき間が不適當だと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になりますので定期的に清掃してください。

●清掃時期

100時間毎

●清掃のしかた

- 1) プラグキャップを外します。
- 2) プラグレンチで点火プラグを外します。



- 3) プラグクリーナを使用し、点火プラグを清掃するのがもっともよい方法です。

お買い上げの販売店をご利用ください。

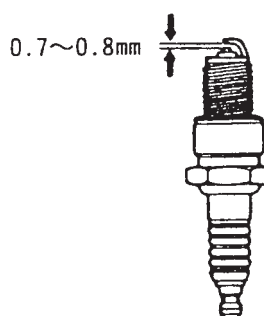
- ・プラグクリーナーがないときはワイヤブラシで汚れを落としてください。
- ・プラグの点火すき間は0.7mm～0.8mm（官製はがき約2枚分）です。すき間が広がった場合には、別記の標準プラグに交換してください。

交換はお買い上げ販売店にご依頼ください。

<標準プラグ>

NGK BPR5ES

DENSO W16EPR-U



- 4) 清掃後、点火プラグを取り付けた後、プラグキャップを確実に押し込んでください。

重要

- ・標準以外のプラグを使用しないでください。
- ・プラグの取り付けは、ねじ山をこわさないように、はじめに指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。

10. 長期間使用しない時の手入れ

長時間運転しない場合、又は作業を終わり長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。エンジンを停止し、万が一始動を防ぐため点火プラグキャップを点火プラグから外してください。

- 1) 燃料タンク、気化器内のガソリンを抜いてください。

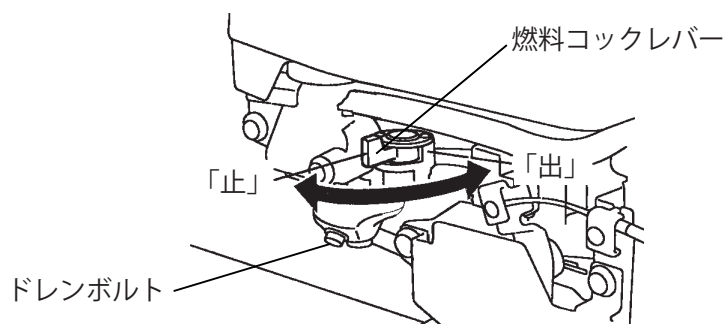
警告

- ・燃料を抜くときは火気厳禁。
- ・風通しのよい場所で行ってください。

○使用工具：10ミリメガネレンチ 又はスパナ

●ガソリンの抜き方

- 1) 燃料タンクキャップを取り外し、タンク内のガソリンを容器に受けてください。抜き終わったら燃料タンクキャップを閉めてください。
- 2) 気化器内のガソリンは燃料コックレバーを「出」位置にしてドレンボルトを緩め、ガソリンを容器に受けてください。
- 3) 完全に燃料が抜けたらドレンボルトを元の状態に戻し確実に締付け、燃料コックレバーを「止」位置にしてください。



警告

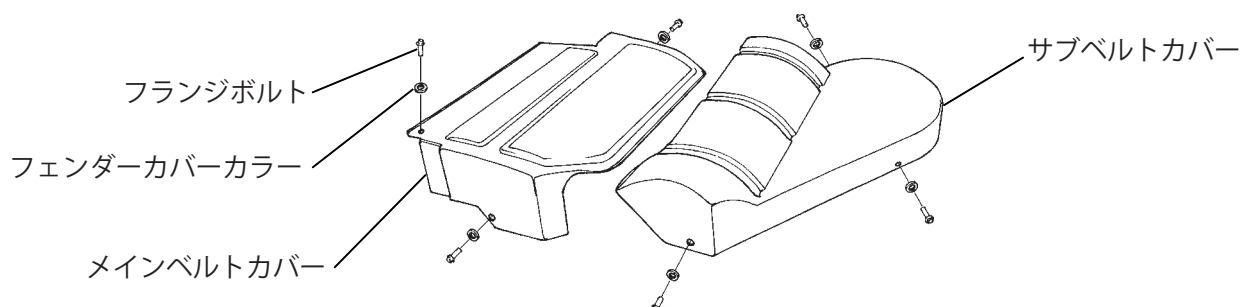
抜いた燃料は専用容器にうつして、涼しい場所で保管してください。

- 2) エアクリーナ（空気清浄器）を清掃してください。清掃の仕方は「9. 点検・整備」（45ページ）を参照してください。
- 3) ベルトカバー内部に溜まったゴミなどを清掃してください。

○使用工具：10ミリメガネレンチ 又はスパナ

●カバーの付け方・外し方

メインベルトカバー、サブベルトカバーそれぞれ3ヶ所のフランジボルトとフェンダーカバーカラーを外します。始めにメインベルトカバーを外し、次にサブベルトカバーを外します。取り付けはその逆です。



10. 長期間使用しない時の手入れ

4) 刈刃及び各部の点検・清掃をしてください。

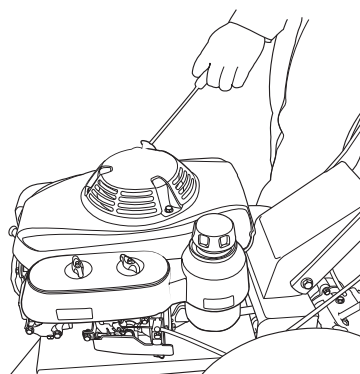
刈刃周辺の点検・清掃は「4. 運転前の準備・点検」(25～26ページ)

機体全般の点検・清掃は「9. 点検・整備」(43～46ページ)

を参照してください。

5) 刈刃のサビを防止するため、刈刃にオイルを塗布してください。

6) エンジン始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。



7) 注油・グリスアップをしてください。

水気や汚れを拭き取り、乾燥させた後、各部にオイルまたはグリスを注油してください。

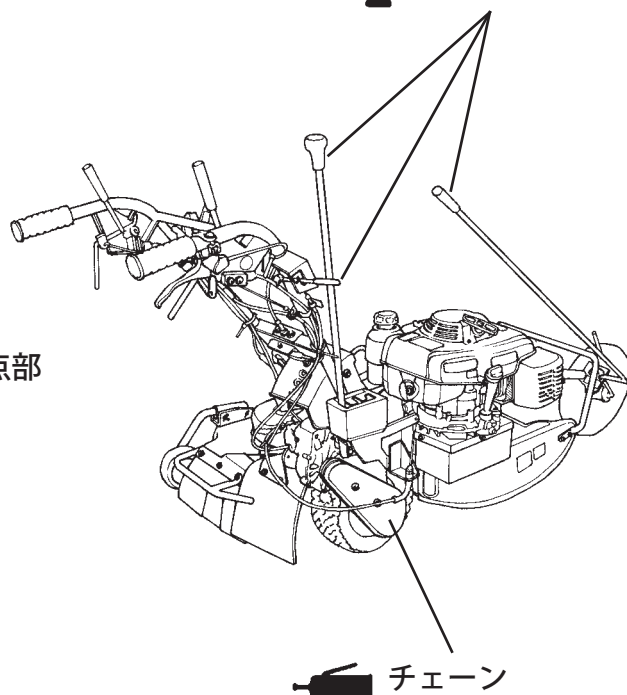
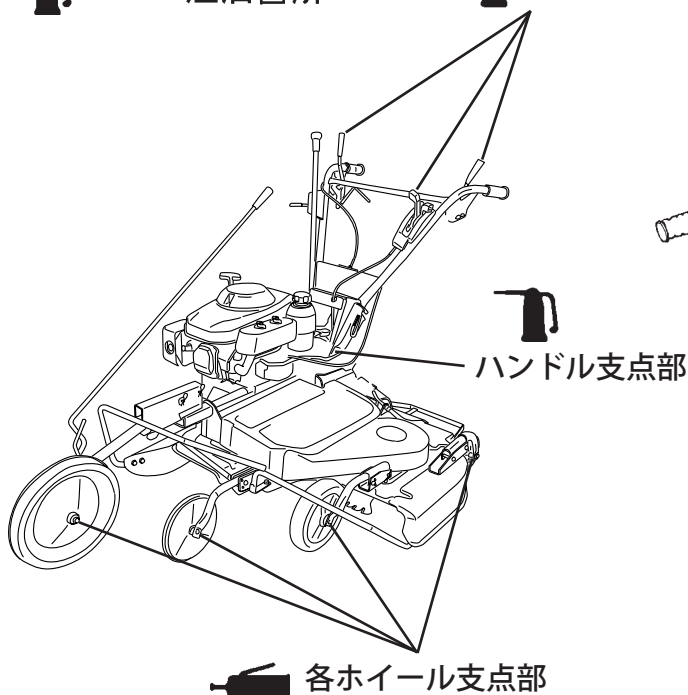
<注油、グリスアップ箇所>

・・・グリスアップ箇所

・・・注油箇所

 各レバー支点部

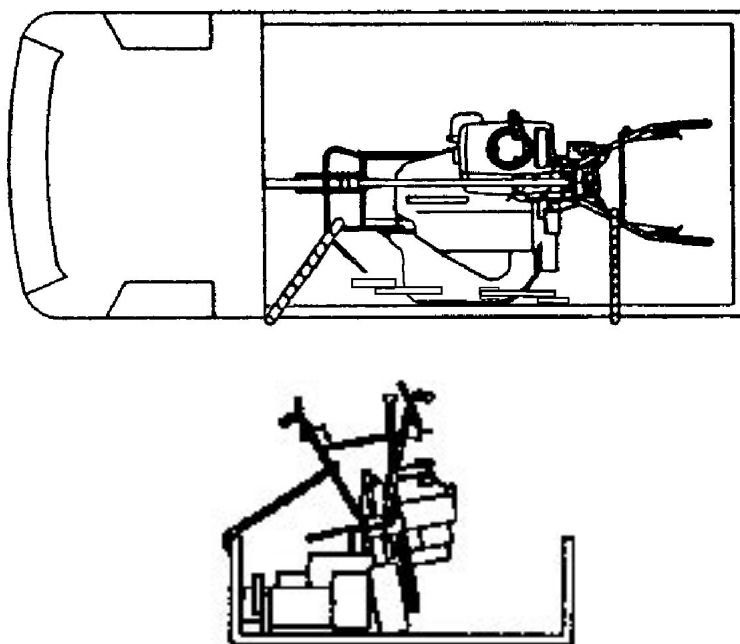
 各レバー支点部



8) 屋根のある場所に保管してください。

1 1. 車への積載の場合

- トラックへの積み込み・積み降ろし作業の注意項目については「安全に作業するために」の「輸送時の注意項目」（7～8ページ）を参照し、安全に注意し慎重に行ってください。
- 各レバーの操作方法については「3. 操作レバー関係の取扱い要領」（18～23ページ）を参照してください。
 - 1) 車にアユミ板を2枚並べかけてください。
 - 2) ローリングレバーを「固定」位置にしてください。
 - 3) スイングレバーを「0°」位置にしてください。
 - 4) エンジン回転は「低速」にしてください。
 - 5) 走行クラッチレバーを「入」位置にしてください。
 - 6) 変速レバーは「低」側にし、ハンドルをしっかりとって慎重に、前進で積み込み・積み降ろし作業をしてください。
 - 7) 本機を荷台左側に寄せ、前方につき当てて、図のようにハンドルとフロントガードにロープをかけて本機を車へ固定してください。
(本機が移動しない程度に軽くロープで固定してください)



12. 故障のときは

故障のときは、まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買い上げいただいた販売店へお申しつけください。

こんなときは	点検見直し箇所	処置方法	参照ページ
エンジンが始動しない。	始動方法は間違っていないですか	「5. エンジンの始動・停止のしかた」を参照し、正しい手順で行ってください。	28
	燃料が無くなっていませんか。	補給してください。	24
	点火プラグキャップが外れていませんか。	点火プラグキャップを取付けてください。	46
	燃料コックが「止」位置になっていませんか。	「出」位置にしてください。	19
	エンジンが冷えていませんか。	エンジン回転調節レバーを「チョーク」位置にしてください。	18
	エンジンオイルは規定量ありますか。	規定量入れてください。	25
走行しない	車輪の軸に異物が挟まっていませんか。	異物を取り除いてください。	—
	チェーンが外れていませんか。	お買い上げいただいた販売店へ連絡し修理を受けてください。	—
エンジンに力がない	エアクリーナが汚れていませんか。	清掃してください。	45
	エンジンにオイルが規定量はいつていますか。	規定量入れてください。	25
刈取クラッチを「入」位置にしても刈刃が回転しない	刈取ベルトが外れていませんか。	お買い上げいただいた販売店へ連絡し修理を受けてください。	—
	刈取ベルトが折損していませんか。	お買い上げいただいた販売店へ連絡し修理を受けてください。	—
	刈取ベルトがスリップしていませんか。	お買い上げいただいた販売店へ連絡し修理を受けてください。	—
	刈取部に草・異物が詰まっていませんか。	刈取部の草・異物を取り除いてください。	—
刈刃を回転させても草が刈りにくい	エンジン回転調節レバーを「高速」位置にしていますか。	エンジン回転調節レバーを「高速」位置にします。	18
	走行速度が草の種類・草地条件に適していますか。	適正速度にしてください。	—
	刈刃が減っていませんか。又は欠けていませんか。	刈刃を交換してください。	25



警告

- ・点検は風通しのよい場所で行ってください。
- ・火気を近づけないでください。

1 3. 標準付属品および主要消耗部品

●本機には下記の付属品があります。お買い求めの際、お調べください。

部品番号	部品名	個数
9 1 9 0 1-M 7 7-0 3 1	取扱説明書（JB-870）	1
	製品保証書、安全確認カード	1
3 5 9 0 2-M 7 5-0 0 2	ブレード310	1
3 5 9 0 1-M 7 7-0 0 1	ブレード430	1

●本機の主要消耗部品

部品番号	部品名	備考
3 5 9 0 2-M 7 5-0 0 2	ブレード310	上面用
3 5 9 0 1-M 7 7-0 0 1	ブレード430	法面用
3 5 9 0 4-M 7 5-8 0 1	ブレードホルダーワッシャーB	上面用
3 5 9 0 3-M 7 5-8 0 1	ブレードホルダーワッシャーA	法面用
3 8 9 0 2-M 7 7-0 0 1	ゴムイタA	
3 8 9 0 4-M 7 7-0 0 2	ゴムイタB	
3 8 9 0 6-M 7 7-0 0 2	ゴムイタC	
9 1 6 5 1-0 2 0 9 0 3 3	オレンジベルト LB33	エンジン→ブレード310
9 1 6 5 2-0 2 0 7 0 3 4	レッドS2ベルト SA34	ブレード310→カウンター
9 1 6 5 2-0 2 0 7 0 5 5	レッドS2ベルト SA55	カウンター→ブレード430
9 0 1 0 5-9 6 0-0 0 3	ボルト, 6カク 10×25	刈刃締付ボルト
9 0 4 8 1-4 3 0-0 0 0	ワッシャー, スプリング 10MM	刈刃用ザガネ
1 7 2 1 0-Z 1 V-0 0 3	エレメント	エアクリーナろ過部 (紙+ウレタン セット)
1 7 2 1 8-8 8 8-0 0 3	フィルター	エアクリーナろ過部 (ウレタンのみ)

14. 主要諸元

名 称 (タイプ)		ローリングモア 「あぜみち」
型 式 名		J B - 8 7 0
項 目	単位	諸 元
エンジン	—	ホンダ GXV160H2
形 式	—	単気筒、4サイクル、OHV
最大出力	kW(PS)/rpm	* 3.2 (4.4) / 3600
排 気 量	cm ³	163
内径×行程	mm	68×45
点火時期	—	上死点前20度
点火方式	—	トランジスタ式マグネット点火
オイル容量	リットル	0.65
燃料タンク容量	リットル	1.80
点火プラグ	—	BPR5ES(NGK) W16EPR-U(DENSO)
全 長	mm	1730
全 幅	mm	985
全 高	mm	1070
重 量	kg	86
刈 幅	mm	700
刈 高 さ	mm	18, 35, 58, 87
変速段数	—	HST (無段変速)
車 速	m / s	0～0.85

*ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 3,600rpm (最大出力) で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。

量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

※諸元は製品の改良のため予告なく変更する場合がございます。ご了承ください。

